

町田市スポーツ推進計画19-28

前期アクションプラン (2019～2023年度)の振り返り

凡例1

○基本施策(1)子どものスポーツ推進の評価

指標	「スポーツが嫌い」という回答の割合	現状値 2018	小5 8.8% 中2 14.0%	目標値 2023	小5 6% 中2 9%	実績値 2023	小5 6% 中2 9%	達成率	99.99% 99.99%	評価	○ ○
前期評価 次期課題	スポーツ推進計画策定時において、「スポーツがやや嫌い」と回答する子どもの数を減らしていく取組が重要ではないか、とのご意見があったことから、年少期にスポーツを好きになり、楽しむきっかけに繋がる取り組みが必要です。前期アクションプランの期間では、新型コロナウイルス感染症の影響から、子どもたちのスポーツ時間が減少する傾向があったものと思われます。後期アクションプランでは、スポーツ離れが進んだ子どもたちが、よりスポーツに興味を持てるよう、取組には工夫が必要になります。										

達成率・・・実績値(2023)／目標値(2023) です。

目標値に向かって数値を下げていく場合の達成率の計算方法・・・指標の反対の目標値を設定しているものと仮定し、100%から各数値を差し引いた残りの数値で前述の計算をする。

例:「スポーツが嫌い」という回答の割合を小学校5年生に関しては、現状値「8.8%」から目標値「6%」に減少させたい。

⇒「スポーツが嫌いではない」という回答の割合を、「91.2%(100%-8.8%)」から、「94.0%(100%-6%)」に上昇させたい、と読み替える。

⇒前述の例で、実績値が8.4%だった場合は、実績値91.6%(100%-8.4%)／目標値94.0%(100%-6%)で、97.4%となります。※

※「町田市5カ年計画22-26」と同様の考え方で算出しています。

評価(右上)・・・アンケート結果等による評価です。達成率が110%を超えるものは◎、90%以上、110%以下のものは○、90%未満のものは△としています。

前期評価・次期課題・・・後期アクションプランの策定を進める中で、審議会の中から出てきた前期アクションプランの振り返り等を記載しています。

凡例2

基本施策	整理番号	取組項目	取組内容	取組主体	連携先	指標	現状値	目標値	2019	2020	2021	2022	2023 【目標値】	%	評価
（１）子どものスポーツ推進	1-1-2	市内10地区のスポーツマップの作成・活用	地域のスポーツが楽しめる場所やスポーツ情報がまとめられた地図を作成し、市内の全小中学生に配布します。	スポーツ振興課 地域スポーツクラブ スポーツ推進委員 公園緑地課 指定管理者	学校 町内会自治会	スポーツマップを作成した地区数	0地区	10地区	検討調査	2地区	4地区	7地区	10地区	100.00%	○
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> 2019年度は、ボール遊びができる公園等の基準などについて検討を行った。 2020年度は、2地区(南地区・高々坂・成瀬地区)のスポーツマップを作成し、ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア)と連携し、区域内の小学校12校に配布した。 2021年度は、新たに2地区(相原地区・小山・小山ヶ丘地区)のスポーツマップを作成し、ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア)と連携し、区域内の小学校5校と、前年度作成した2地区についても作成済みのスポーツマップの内容を時点更新し、区域内の各小学校に配布した。 2022年度は、新たに3地区(町田第一地区・町田第二地区・玉川学園・南大谷地区)のスポーツマップを作成し、ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア)と連携し、区域内の小学校9校と、前年度までに作成した4地区についても作成済みのスポーツマップの内容を時点更新し、区域内の各小学校に配布した。 2023年度は、新たに3地区(鶴川地区・忠生地区・木曽地区)のスポーツマップを作成し、ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア)と連携し、区域内の小学校16校と、前年度までに作成した7地区についても作成済みのスポーツマップの内容を時点更新し、区域内の各小学校に配布した。 ※補足:配布対象者は、作成初年度の地区内では、各小学校の小学1年生～3年生、すでに作成を完了した地区では、各小学校の新1年生を対象に配布しています。 <5年間の総括> 前期アクションプランの期間では、市内全10地区のスポーツマップ(ボール遊びができる公園等を掲載した地図)を作成し、市内全小学校に配布することができた。配布先の学校の校長先生から感謝のお声をいただくことがあった他、スポーツに関する市民意識調査アンケートの中で、「子どものスポーツや外遊びの環境が、自分が子どもの頃と比べて悪くなったと感じるか」という質問に対し、地区別の集計結果において、配布した地区では前年度よりも数値が改善する傾向が見られたことなど、一定の効果が得られたのではないかと考える。後期アクションプランでは、さらに子どもたちが楽しく体を動かすきっかけにつながるような情報を追加し、継続して配布していきたい。						実績→	検討調査	2地区	4地区	7地区	10地区		

評価コメント(5年間の具体的な取り組み)・・・前期アクションプラン期間における主な取り組み内容です。

評価コメント(5年間の総括)・・・前期アクションプラン期間にあった事業や周辺状況への評価、後期への課題等です。

実績・・・前期アクションプラン期間中の実績です。

%・・・2023年度(2022年度までに事業が終了している取組は、当該取り組みの事業最終年度)の実績が、目標値に対してどれくらい達しているか。

※実績値(2023)／目標値(2023もしくは事業最終年度) です。

評価・・・前期アクションプランの各取り組みごとの達成状況に対する評価です。

※達成率が110%を超えるものは◎、90%以上、110%以下のものは○、90%未満のものは△としています。

町田市スポーツ推進計画19-28アクションプラン（2019～2023年度）の振り返りと評価

基本目標1 スポーツへの参加機会の充実

○基本施策(1)子どものスポーツ推進の評価

指標	「スポーツが嫌い」という回答の割合	現状値 2018	小5 8.8% 中2 14.0%	目標値 2023	小5 6% 中2 9%	実績値 2022※	小5 8.6% 中2 14.7%	達成率	97.23% 93.74%	評価	○ ○
前期評価 次期課題	スポーツ推進計画策定時において、「スポーツがやや嫌い」と回答する子どもの数を減らしていく取組が重要ではないか、とのご意見があったことから、年少期にスポーツを好きになり、楽しむきっかけに繋がる取り組みが必要です。前期アクションプランの期間では、新型コロナウイルス感染症の影響から、子どもたちのスポーツ時間が減少する傾向があったものと思われます。後期アクションプランでは、スポーツ離れが進んだ子どもたちが、よりスポーツに興味を持てるよう、取組には工夫が必要です。										

基本施策	整理番号	取組項目	取組内容	取組主体	連携先	指標	現状値	目標値	2019	2020	2021	2022	2023 【目標値】	%	評価
(1) 子どものスポーツ推進	1-1-1	「まちとも※1」と連携した放課後のスポーツ推進	スポーツ推進委員や地域スポーツクラブが「まちとも」で子どもたちにスポーツの楽しさを伝えます。	スポーツ振興課 地域スポーツクラブ スポーツ推進委員	児童青少年課 まちとも運営協議会	スポーツ推進委員・地域スポーツクラブと連携した地区数	2地区	5地区	3地区	4地区	5地区	5地区	5地区	60.00%	△
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> 2019年度は、3地区(町田第二地区、木曽地区、小山地区)にて、地域スポーツクラブ(町田スポーツ文化ネットワーク、おやまスポーツ文化倶楽部)やスポーツ推進委員が、放課後等子ども遊び場見守り事業「まちとも」にてスポーツプログラムを提供し、延べ2,090人の児童が参加しました。 2020年度は、新型コロナウイルスの影響により中止になった地区が2地区(小山地区、忠生地区)ありますが、2地区(町田第二地区、木曽地区)では、地域スポーツクラブ(町田スポーツ文化ネットワーク、おやまスポーツ文化倶楽部、スポーツ塾J.VIC)により「まちとも」にてスポーツプログラムを提供し、延べ720人の児童が参加しました。 2021年度は、4地区(町田第二地区、木曽地区、小山地区、玉川学園・南大谷地区)にて、地域スポーツクラブ(町田スポーツ文化ネットワーク、おやまスポーツ文化倶楽部)により「まちとも」にてスポーツプログラムを提供し、延べ720人の児童が参加しました。 2022年度は、3地区(木曽地区、小山地区、玉川学園・南大谷地区)にて、地域スポーツクラブ(町田スポーツ文化ネットワーク、おやまスポーツ文化倶楽部、スポーツ塾J.VIC)により「まちとも」にてスポーツプログラムを提供しました。 2023年度は、3地区(木曽地区、小山地区、玉川学園・南大谷地区)にて、地域スポーツクラブ(町田スポーツ文化ネットワーク、おやまスポーツ文化倶楽部、スポーツ塾J.VIC)により「まちとも」にてスポーツプログラムを提供しました。 <5年間の総括> 前期アクションプランの期間では、2020年度から2022年度にかけ、新型コロナウイルス感染症の拡大により、各学校にて「まちとも」自体の中止や、外部の方の敷地内への立ち入り禁止等の対策がなされ、地域スポーツクラブやスポーツ推進委員と各学校のまちともとの連携が困難な場面が多ありました。後期アクションプランでは、引き続きまちともと地域スポーツクラブやスポーツ推進委員との連携の拡大を図る他、まちとも以外の場面でも、地域の子どもたちに向けたスポーツ機会の提供に取り組んでいただくため、広報等の支援を継続して実施していきたい。						実績→	3地区	2地区	4地区	3地区	3地区		
	1-1-2	市内10地区のスポーツマップの作成・活用	地域のスポーツが楽しめる場所やスポーツ情報がまとめられた地図を作成し、市内の全小中学生に配布します。	スポーツ振興課 地域スポーツクラブ スポーツ推進委員 公園緑地課 指定管理者	学校 町内会自治会	スポーツマップを作成した地区数	0地区	10地区	検討調査	2地区	4地区	7地区	10地区	100.00%	○
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> 2019年度は、ボール遊びができる公園等の基準などについて検討を行った。 2020年度は、2地区(南地区、高ヶ坂・成瀬地区)のスポーツマップを作成し、ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア)と連携し、区域内の小学校12校に配布した。 2021年度は、新たに2地区(相原地区、小山・小山ヶ丘地区)のスポーツマップを作成し、ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア)と連携し、区域内の小学校5校と、前年度作成した2地区についても作成済みのスポーツマップの内容を時点更新し、区域内の各小学校に配布した。 2022年度は、新たに3地区(町田第一地区、町田第二地区、玉川学園・南大谷地区)のスポーツマップを作成し、ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア)と連携し、区域内の小学校9校と、前年度までに作成した4地区についても作成済みのスポーツマップの内容を時点更新し、区域内の各小学校に配布した。 2023年度は、新たに3地区(鶴川地区、忠生地区、木曽地区)のスポーツマップを作成し、ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア)と連携し、区域内の小学校16校と、前年度までに作成した7地区についても作成済みのスポーツマップの内容を時点更新し、区域内の各小学校に配布した。 ※補足：配布対象者は、作成初年度の地区内では、各小学校の小学1年生～3年生、すでに作成を完了した地区では、各小学校の新1年生を対象に配布しています。 <5年間の総括> 前期アクションプランの期間では、市内全10地区のスポーツマップ(ボール遊びができる公園等を掲載した地図)を作成し、市内全小学校に配布することができた。配布先の学校の校長先生から感謝のお声をいただくことがあった他、スポーツに関する市民意識調査アンケートの中で、「子どものスポーツや外遊びの環境が、自分が子どもの頃と比べて悪くなったと感じるか」という質問に対し、地区別の集計結果において、配布した地区では前年度よりも数値が改善する傾向が見られたことなど、一定の効果が得られたのではないかと考える。後期アクションプランでは、さらに子どもたちが楽しく体を動かすきっかけにつながるような情報を追加し、継続して配布していきたい。						実績→	検討調査	2地区	4地区	7地区	10地区		
	1-1-3	小学校連合体育大会の開催	市内全小学校が参加する連合体育大会を開催します。	教育委員会	スポーツ振興課	連合体育大会参加学校数	未開催	42校	14校	42校	42校	42校	42校	100.00%	○
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> 2019年度は参加希望校による学校連合体育大会ブレ大会を実施し、町田市立小学校14校の6年生が町田GIONスタジアム(町田市立陸上競技場)に集まり、各種競技を行った。 2020年度は参加希望校による学校連合体育大会ブレ大会を実施し、町田市立小学校20校の6年生が多摩市立陸上競技場に集まり、各種競技を行った。 2021年度から2023年度にかけて小学校連合体育大会を2日間に分けて実施し町田市立小学校42校の6年生が町田GIONスタジアム(町田市立陸上競技場)に集まり、各種競技を行った。 【競技種目】 (1)100m走 (2)50mハードル走 (3)走り幅跳び (4)走り高跳び (5)チャレンジ種目(特別支援学級等種目) (6)800m走 ※2021年度は未実施 (7)400mリレー (8)長なわ跳び ※2019年度のみ実施 <5年間の総括> 2019年度に参加希望校によるブレ大会を初めて開催した。2020年度は、市内全小学校で実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、参加希望校によるブレ大会として開催した。2021年度からは、市内全小学校による連合体育大会を開催することができた。競技種目を変更するなど新型コロナウイルス感染症対策を施したうえで開催した年もあったが、競技や応援を通して他校の児童との交流が深まるなど、スポーツを楽しむ機会となった。						実績→	14校	20校	42校	42校	42校		

(1)子どものスポーツ推進	1-1-4	トップアスリートとの交流機会の創出	市内外で活躍する町田市ゆかりのトップアスリート等と市民との交流の機会を創出します。	スポーツ振興課 オリパラ推進課 指定管理者		トップアスリートとの年間交流回数	年 1 回	年9回	年 8回	年 9回	年 9回	年 9回	年 9回		
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> ・町田市で事前合宿を行った、ホストタウンでもあるインドネシアのパラバドミントン代表と東京2020/パラリンピック終了後の2022年から2年連続で、交流を行った。 ・2019年度から新たに読売巨人軍と連携し、2軍公式戦への市民招待や、現役選手による小学校訪問を行った。 ・町田市こどもマラソン大会で、リオデジャネイロオリンピック10,000m代表の関根花観さんと日本生命所属でリオデジャネイロオリンピック、東京2020オリンピック日本代表の桐生祥秀選手、第12回スポーツアワードまちだでグランプリを受賞した村上輝選手をゲストとして招いた。 <5年間の総括> ・東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、パラバドミントンやブラインドサッカーといったバラスポーツのレガシーを継承し、体験会等を開催している。 ・もともと関係のあった団体とより連携して、トップアスリートと関わるができる機会の創出ができた。						実績→	年 11回	年3回	年14回	年19回	年17回	188.89%	◎
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> ※指定管理者が実施したもの 【町田中央公園】 「元オリンピック代表 櫻井由香さんのバレーボール教室」、「元サッカー日本代表 坪井慶介さんのサッカー教室」、「元Jリーガー 高木義成さんのキーパー講習会」、「元オリンピック女子10,000メートル日本代表 関根花観さんの走り方教室」 【室内プール】 2019～2023年 室内プール プールdeカヌー教室 計5回 【総合体育館】 大相撲町田場所の開催、パラリンピック選手による卓球体験会、全日本卓球選手権の出場選手による卓球体験会、元日本代表バドミントン選手によるバドミントン教室、日本ハンドボールリーグ出場選手によるハンドボール教室、元U-17・20・23日本代表コーチによるフェンシング教室、Vリーグ所属選手によるバレーボール教室、神奈川大学(関東一部リーグ)所属選手によるバスケットボール教室、元アメリカ代表バレーボール選手によるバレーボール教室、リオオリンピック出場選手によるバドミントン教室 【鶴間公園】 ・2022-2023年 Jリーガーが教えるゴールキーパー教室 【野津田公園】 ・サッカー、ラグビー、フットサル体験イベント グリーンフィールドオースタムフェスティバル2019で、FC町田ゼルビア、キャノンイーグルス、ベスカドーラ町田の現役Jリーガー、トップリーガー、フットサル選手と交流する「サッカー、ラグビー、フットサル体験イベント」を実施。 ・大人のサッカー教室・釜本フットボールフェスティバル 日本サッカー協会名蹴会、釜本邦茂氏、金田喜稔氏を講師に迎え、ジュニア世代からシニア世代に向けた本格的なサッカースクールを開催。 ・絆記録挑戦会 毎年、箱根駅伝で活用する、青山学院大学陸上競技部所属の現役長距離ランナーが主体となり実施される競技会。一般参加者・観覧者を招き、2023年度は計3回開催した。 ・野津田公園 グリーンフェスティバル2022(地域交流スポーツイベント) ヨガフェス・クラシックカーショー・ニュースポーツという3つを主体として、11月に開催した。町田GIONスタジアムで実施した「レスリング体験」では、アテネ・北京・ロンドン・リオデジャネイロと4大会オリンピック金メダリストの伊調馨さんが参加して頂き、大いに盛り上げてくれた。また、東京2020/パラリンピック開催で高まったバラスポーツへの関心と、更なる理解促進・普及啓発を図るため、講師に寺西一選手を招き、ブラインドサッカー体験会も実施した。 ・大迫傑 Sugar Elite kids 2022 2022年3月29日にて、現役オリンピックである大迫傑氏によるジュニア向けのスポーツ教室を町田GIONスタジアムで開催した。前半部は実技としてフィールド講習、後半部はスタジアム諸室での座談という構成で実施。参加者は約50名。 ・MARCH対抗戦 2021年より町田GIONスタジアムで開催される5大学(明大、青学大、立大、中大、法大)最強を決める「MARCH対抗戦」が開催。陸上1万メートルのタイムを競う、箱根駅伝前の前哨戦として位置するイベント。来年の箱根駅伝のエース級の選手たちが、激走を繰り広げ、若い世代を中心に多くの観客がスタジアムに集まった。年々、開催規模が大きくなる陸上イベント。 ・八王子ロングディスタンス10,000m 2022年11月に今年度、開催が初となる町田GIONスタジアムで開催した。実業団に加盟する長距離のトップアスリートが集結する大会。アジアで初の電気点灯によるペースメーカが使用され、個人の記録(タイム)も大きく更新された。2024年の開催に向けて調整中。 【緑ヶ丘グラウンド】 2022-2023年 元Jリーガーによるキッズサッカー教室 【三輪みどり山球場】 2019年度(ジャイアンツアカデミー 199名) 2022年度(ミズノビクトリークリニック サッカー日本代表 加地 亮 16名) 【成瀬クリーンセンターテニスコート】 2021年度(テニスビクトリークリニック 坂井 利彰 64名) <5年間の総括> ※指定管理者が実施したもの 新型コロナウイルス感染症拡大防止による制限もあった中で、トップアスリートとの多種多様な交流イベントや教室を実施することができた。 トップアスリートとの交流機会において、様々な競技を実施したことで、子どもから高齢者まで、幅広い世代の方にスポーツの楽しさを伝えることができた。また、パラバドミントンインドネシア代表との交流やブラインドサッカーについては、オリパラのレガシーとして、今後も継続的に実施することを予定している。													
その他関連取組		スポーツにチャレンジの開催、町田市こどもマラソン大会の開催、地域スポーツクラブ・スポーツ推進委員・指定管理者によるスポーツ教室の実施													
(1)子どものスポーツ推進	評価コメント	○スポーツにチャレンジの開催 <5年間の具体的な取り組み> スポーツ推進委員主催の小学生とその保護者を対象にしたスポーツ体験イベント「スポーツにチャレンジ」を市立総合体育館、サン町田旭体育館で実施した。ポッチャやラダーゲッターなどのニュースポーツ、トランポリン、オリジナルバルクール、リズム体操、競技用車いす体験等の種目を実施した。 <5年間の総括> 年間5回の実施を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により2020年度は0回、2021年度は2回の実施にとどまった。2022年度、2023年度は参加人数を制限しつつ5回実施した。また、各回で実施しているアンケートでは肯定的な意見が多く、親子で運動する機会の提供に対する感謝を頂くなど大変好評な事業であるため、今後もより参加人数を増やしていくとともに、新しい場所での実施や参加者が楽しめるよう工夫等しながら、継続実施していきたい。												-	○
	評価コメント	○町田市こどもマラソン大会の開催 <5年間の具体的な取り組み> 荒天や新型コロナウイルスの影響で2年連続で中止を余儀なくされたが、2021年には対象学年を3～6年生から5、6年生に縮小し、1レース当たりの人数を極力減らすなど、十分な感染対策をとりながら、開催することができた。2022年には、対象学年を3～6年生に戻し、記念すべき50回大会を迎えにあたって、ゲストとして、リオデジャネイロオリンピック10,000m代表の関根花観さんや日本生命保険相互会社と連携し、リオデジャネイロオリンピック、東京2020オリンピック日本代表の桐生祥秀選手を招いた。また、こどもマラソン大会対象学年の小学生からの公募で、大会マスコットキャラクターが誕生するなど、記念尽くしの大会となった。また、マラソン以外の部分として、PRブースを設置し、こちらでは、日本生命保険相互会社だけでなく、明治㈱とも連携し、健康相談ブースの出張等で盛り上げていただいた。2023年は、2022年同様に日本生命保険相互会社と明治㈱と連携した他、第12回スポーツアワードまちだでグランプリを獲得した陸上砲丸投げの村上輝選手とゲストとして招き、大いに盛り上がった。 <5年間の総括> 荒天や新型コロナウイルス等の環境変化を受けたが、それに負けず、できる範囲で最大限の対策をして開催したことや、第50回大会での記念イベントの企画、多様なゲストの招待、PRブースや参加賞でご協力いただける企業との連携等、これまでになかったより大会を盛り上げるためのアプローチができた。													
	評価コメント	○地域スポーツクラブやスポーツ推進委員によるスポーツ教室の実施 <5年間の具体的な取り組み> 【地域スポーツクラブ】 法政クラブ・スポーツ塾J.VIC・アスレチック町田が、子ども向けのスポーツ教室を実施した。参加者を増やす工夫を図るため、親子で参加できる教室の企画や、子どもセンターで実施するなど、参加しやすい環境づくりを工夫した。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた2021年度以降に関しては、教室実施のほか、自宅で取り組める運動動画を作成し、市のYoutubeアカウントにて公開している。 【スポーツ推進委員】 市内各小学校からの依頼に応じて、主に1～4年生に対してポッチャ教室を実施した。ポッチャ競技についての簡単な講義から、ルール説明、実践を行ない、ゲーム形式で子供たちが体験できた。 <5年間の総括> 【地域スポーツクラブ】 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、制限を受けた期間もあったが、体調管理の徹底や参加人数を絞るなど、感染対策を講じ、実施を継続することができた。また、2021年度から開始した自宅で取り組める運動動画の配信に関しては、子どもと一緒に取り組める親子向けの内容を作成し、時間と場所を問わずスポーツに取り組める機会を提供することができた。 【スポーツ推進委員】 新型コロナウイルス感染症の影響でスポーツ教室の実施が減少した。学校の担当者が変わるなど学校との繋がりが薄くなったことや、感染症対策で学外からの講師を招くことが難しくなったことが影響した。ボランティアコーディネーターの会議への出席することで学校との連携を強化し、また、新型コロナウイルス感染症の影響が収まってきたことで、2023年度から実施数を増やすことができた。今後も継続して実施数を増やしていきたい。													
(1)子どものスポーツ推進	評価コメント	○指定管理者によるスポーツ教室の実施 <5年間の具体的な取り組み> <5年間の総括> ※情報が多いため、別紙1に記載しました。そちらをご参考ください。													

※1 「まちとも」・・・町田市放課後等子ども遊び場見守り事業です。放課後に子どもたちが安心して過ごす居場所をつくるため、大人に見守られ過ごすことのできる自由来所型の活動。(市内小学校で実施)

○基本施策(2)働き盛り世代・子育て世代のスポーツ推進の評価

指標	30～49歳のスポーツ実施率	現状値 2018	男性 52.0% 女性 53.7%	目標値 2023	男性 61% 女性 61%	実績値 2023	男性 54.90% 女性 58.80%	達成率	男性 90.00% 女性 96.39%	評価	○ ○
前期評価 次期課題	年代別のスポーツ実施率をみると、40 歳代が最も低く 54.6%、30歳代が55.4%と、次に低くなっています。また、スポーツを行わなかった理由として、「機会がなかったから」「仕事が忙しくて時間がなかったから」「家事・育児が忙しくて時間がなかったから」といった点が上位にあげられます。審議会の中で、前期アクションプランの期間は新型コロナウイルス感染症の影響からリモートワークが進み、働き盛り世代のスポーツをする時間が増加傾向にあったのではないかというご意見がありました。徐々にリモートワークの実施率が減少していることから、時間や場所を問わないスポーツ機会や、子育てをしながら参加できるスポーツ機会の提供等が求められています。										

基本施策	整理番号	取 組 項 目	取 組 内 容	取組主体	連携先	指標	現状値	目標値	2019	2020	2021	2022	2023 【目標値】	%	評価
(2) 働き盛り世代・子育て世代の	1-2-1	企業単位で行えるスポーツ情報、出前講座の提供	市内企業を対象として健康経営の必要性を啓発し、事業所によるスポーツ推進の取組みを支援します。	スポーツ振興課 指定管理者	産業政策課 商工会議所 市内企業 (公園緑地課)	出前講座の提供を行った企業数	0社	実施	1社	3社	5社	8社	10社		
	評価 コメント	<5年間の具体的な取り組み> 【町田中央公園】 「協和キリン株式会社」社員向けに ①歩行姿勢測定会、正しい歩き方に関する講義の実施(2021年度、2022年度) ②当施設自由参加教室POWERCARDIOの無料体験会を実施(2022年度) ③健康増進のためのセミナーとして、予防・改善のための座学と実技を実施(2023年度) 【鶴間公園】 ・グランベリーパーク商業施設イベントにフットボールコーチを派遣してのサッカー体験会を実施した。 ・グランベリーパーク商業施設店長研修の一環で、ヨガ講師を派遣してヨガ体験会を実施した。 <5年間の総括> 市内企業に定期的な健康経営サポートの実施を行ったものの、目標値の10社には及ばなかった。						実績 →	2社提供 1社調整	1社	1社	1社	2社	20.00%	△
	1-2-2	子どもの健診時のスポーツ啓発	3歳児健診等子どもの健診時に、子育て中でも日常生活の中で行えるスポーツについて情報提供します。	スポーツ振興課 指定管理者 スポーツ推進委員 ホームタウンチーム 地域スポーツクラブ	保健予防課	啓発物の作成・配布	未実施	実施	検討 作成	実施	見直し 実施	見直し 実施	実施		
	評価 コメント	<5年間の具体的な取り組み> 2019年度は、3歳児健診の会場視察や、啓発物の内容検討等を実施した。 2020年度は、スポーツ庁と連携し、日常の中でもできるスポーツ(保護者と未就学児と一緒に遊びながら体を動かせるもの)のチラシを作成した。新型コロナウイルス感染症の影響から、健診時に建物内で配布することが困難であったため、建物内に設置することとした。 2021年度は、チラシの配布を継続するとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、自宅で行える運動動画情報を探し、市HP紹介した。 2022年度は、自宅で行える運動動画へのQRをチラシに反映し、合わせて情報発信をおこなった。 2023年度は、引き続き自宅で行える運動動画へのQRをチラシに反映し、合わせて情報発信をおこなった。 <5年間の総括> 前期アクションプランの期間では、2020年度から2022年度にかけ、新型コロナウイルス感染症の拡大により、計画策定当初に予定していた健診時に直接的な情報発信を実施する、という取組が出来ない時期が続いた。対象となる働き盛り世代は、様々な理由から忙しく、体を動かしたいという意識があっても、なかなかスポーツ機会にアクセスできないと推測される。SNS等で情報収集することが多い世代でもあることから、後期アクションプランでは、時間や場所を問わずに行える運動動画や、身近な場所でスポーツができる機会の情報等について、ITCの活用により情報発信を進めていきたい。						実績 →	検討 作成	実施	見直し 実施	見直し 実施	実施	-	○
	1-2-3	家族で参加できるスポーツイベントの開催	すば一つ祭まちだや市民体カテスト等のイベントが連携し、家族で参加できるスポーツイベントを開催します。	スポーツ振興課 スポーツ推進委員 体育協会 指定管理者	ホームタウンチーム まちだサポーターズ	市民体カテスト 年間参加者数 (20歳代～50歳代まで)	年 75人	450人	検討	年 450人	年 450人	年 450人	年 450人		
	評価 コメント	<5年間の具体的な取り組み> 特に参加者の少ない20代から40代の働き世代に多く参加してもらえよう、指定管理者と連携して、親子で楽しめるニュースポーツ体験コーナーや的あてドッチビーの設置を行い、多くの参加者でにぎわった。 また、測定対象外の17歳以下、75歳以上の方の測定用紙や体組成測定を用意して幅広い年代の方にご参加いただいた。特に子どもには参加賞の配布や測定後にスポーツ推進委員からアドバイスをもらえるようにした。 町田市と包括連携協定を締結している明治㈱と連携し、骨密度測定を実施していただいた。 <5年間の総括> 2020年からコロナウイルス感染拡大の影響を受けて、スポーツ祭まちだや市民体カテスト等のイベントを、工夫を図りながら開催することが多かった。2021年度からは、市民体カテストを子どもと一緒に家族で参加できるスポーツイベントとして開催したが、参加者数は目標値に及ばなかったものの、毎年動線の整理や適切な人員配置を考えるなど、運営面の工夫はできている。高齢の方の中には、体組成等の測定のみ参加する方もいることから、体カテストに参加してもらえようさらなる工夫が必要である。今後も関係団体等と連携し、スポーツ祭まちだ等イベントを統合して開催する方法を模索していきたい。						実績 →	検討	検討	年 151人	年 144人	年 172人	38.20%	△
	その他 関連取組	指定管理者によるスポーツ教室の実施、保健所と連携した健康づくり教室の実施													
	評価 コメント	<5年間の具体的な取り組み> ○指定管理者によるスポーツ教室の実施 ※情報が多いため、別紙1に記載しました。そちらをご参考ください。 ○保健所と連携した健康づくり教室の実施 市立総合体育館にて開催した「チャレンジマッスル」において、栄養クイズを出題した。運動イベントと絡めて実施することで、健康教育事業への参加が少ない子育て世代へも望ましい食習慣を促す機会とすることができた。また、糖尿病や骨粗しょう症の発症予防を目的に、医師講話と併せて運動教室を開催した。運動と食生活は発症予防に外せない要素であり、併せて教育を行うことでより効果の高い事業となった。延べ参加人数:663名 ※一部指定管理者からの報告事項もあります。情報が多いため、別紙1に記載しました。そちらをご参考ください。 <5年間の総括> ○指定管理者によるスポーツ教室の実施 ※情報が多いため、別紙1に記載しました。そちらをご参考ください。 ○保健所と連携した健康づくり教室の実施 2020年から2022年までは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、事業開催が難しい時期もあったが、定員数の調整や事前予約制にして実施するなど、工夫することによって、事業継続することができた。引き続き連携し、それぞれの得意分野を活かした効果的な健康教育を実施する。 ※一部指定管理者からの報告事項もあります。情報が多いため、別紙1に記載しました。そちらをご参考ください。												-	○

○基本施策(3)高齢者のスポーツ推進の評価

指標	70歳以上の「スポーツをしない、するつもりがない」という回答の割合	現状値 2018	男性 24.6% 女性 28.9%	目標値 2023	男性 21% 女性 25%	実績値 2023	男性 25.00% 女性 25.80%	達成率	男性 99.94% 女性 98.93%	評価	○ ○
前期評価 次期課題	前期アクションプランの期間では、2019年に男性35.6%・女性29.6%、2020年に男性19.0%・女性25.2%、2021年には男性15.1%・女性24.2%と、70歳以上のスポーツをしていないという回答の割合は、男女ともに減少し、特に男性で顕著でしたが、2022年では、男性の数値が16.0%となり、2021年に比べるとやや悪化しています。後期アクションプランでは、改めて、地域での仲間づくりや、子や孫など、他世代との交流につながる機会を提供し、回答の割合の減少につなげていくことが求められています。なお、男性の方の数値は現時点で2028年目標(設定時点:2018年)を達成できていますが、16.0%からのさらなる減少を目指します。										

基本施策	整理番号	取 組 項 目	取 組 内 容	取組主体	連携先	指標	現状値	目標値	2019	2020	2021	2022	2023 【目標値】	%	評価
(3) 高齢者のスポーツ推進	1-3-1	高齢者へのニューススポーツ※2啓発	スポーツ推進委員がニューススポーツを普及し、高齢者の活動でスポーツの面白さ、楽しさを伝えます。	スポーツ振興課 スポーツ推進委員	高齢者福祉課 高齢者支援センター 町田市レクリエーション連盟	高齢者支援センターと連携して事業を実施した地域	未実施	6地域	2地域	3地域	4地域	5地域	6地域	83.33%	△
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> 2019年度は、1地域(忠生)の高齢者支援センターにて、ポッチャ教室等を実施できました。 2020年度は、1地域(忠生)の高齢者支援センターにて、ポッチャ教室等を実施できました。 2021年度は、5地域(忠生、南等)の高齢者支援センターにて、ポッチャ教室等を実施できました。 2022年度は、5地域(忠生、南等)の高齢者支援センターにて、ポッチャ教室等を実施できました。 2023年度は、5地域(忠生、南等)の高齢者支援センターにて、ポッチャ教室等を実施できました。 <5年間の総括> 前期アクションプランの期間では、市内5地区にてポッチャ教室等を通して、高齢者支援センターにおけるニューススポーツの普及に取り組むことができた。新型コロナウイルス感染症の影響から、新たな地区で教室開催することが困難な状況となったが、一度実施した地区では継続して実施できる関係性を築くことができたため、後期アクションプランでは、さらに多くの地域で実施できるよう、調整を継続して進めたい。						実績 →	1地域	1地域	5地域	5地域	5地域		
	1-3-2	温浴施設を活用したスポーツ環境の充実	室内プールに併設する温浴施設を活用し、スポーツ教室等を通じて地域の仲間づくりや多世代交流の機会を創出します。	スポーツ振興課 指定管理者		温浴施設を活用した事業の実施	未実施	実施	-	-	検討	実施	実施	-	○
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> 2022年度は、一般利用のない時間を活用して自主事業や教室事業を行い、より多くの方がスポーツに触れ合う機会を創出できた。 2023年からは、温浴利用券＋のびのび体操&ストレッチの割安券を月1回販売し、スポーツに馴染みのない方への運動機会を創出した。 <5年間の総括> 多目的室の一般開放は、主に卓球・ダンス・武道の団体利用があり、子どもからお年寄りまでの幅広い世代で施設をご利用いただくことができた。また、予約のない空き時間では、指定管理者の自主事業やトレーニング室の教室事業を行い、利用者が快適に活動できる環境を創出することができた。						実績 →	—	工事	工事・検討	実施	実施		
	その他 関連取組	地域スポーツクラブ・スポーツ推進委員・指定管理者によるスポーツ教室の実施													
評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> ○地域スポーツクラブ 町田スポーツ文化ネットワーク・法政クラブ・スポーツ塾J.VICが、高齢者向けのスポーツ教室を実施した。参加者を増やす工夫を図るため、身近な場所である市民センターやコミュニティーセンターで実施するなど、参加しやすい環境づくりを工夫した。初心者でも参加しやすいよう、体ほぐし体操やストレッチ教室を行った。 ○スポーツ推進委員 依頼に応じて高齢者支援センターでポッチャ教室を実施した。ポッチャ競技についての簡単な講義から、ルール説明、実践を行った。 ○指定管理者 ※情報が多いため、別紙1に記載しました。そちらをご参考ください。 <5年間の総括> ○地域スポーツクラブ 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、制限を受けた期間もあったが、体調管理の徹底や参加人数を絞るなど、感染対策を講じ、実施を継続することができた。また、2021年度には自宅でも取り組むことができる高齢者向けの運動動画も市Youtubeアカウントにて配信した。 ○スポーツ推進委員 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、制限を受けた期間もあったが、市民センター等だけでなく、地域の方が参加しやすい場所(高齢者支援センター等)でスポーツ教室を開催した。普段あまり運動をする機会がない高齢者でも楽しめるよう創意工夫を行った結果、ご依頼いただいたセンター職員や利用者からも好評をいただき、満足度は高かった。 ○指定管理者 ※情報が多いため、別紙1に記載しました。そちらをご参考ください。												-	○	

○基本施策(4)障がい者のスポーツ推進の評価

指標	「障がい者のスポーツに関わった」という回答の割合	現状値 2018	6.70%	目標値 2023	12.00%	実績値 2023	7.20%	達成率	60.00%	評価	△
前期評価 次期課題	前期アクションプランの期間においては、オリパラを契機としたバラスポーツの機運醸成や、共生社会の実現等が期待され、一定の成果はあったと考えられますが、後期アクションプランにおいては、高まった機運をさらに広めていくため、バラスポーツへの理解・関心、また障がいのある方でも実施できるスポーツ機会の提供等がより重要となっています。										

基本施策	整理番号	取 組 項 目	取 組 内 容	取組主体	連携先	指標	現状値	目標値	2019	2020	2021	2022	2023 【目標値】	%	評価
(4) 障がいの者のスポーツ推進	1-4-1	スポーツ・レクリエーション教室等の開催	障がい者(児)スポーツ教室を開催し、スポーツを楽しめる環境を整えます。	障がい福祉課 子ども発達支援課 指定管理者	スポーツ振興課	年間開催回数 ①障がい児スポーツ教室(体育館、プール) ②指定管理者による教室・イベント事業	① 体育館 年 35回 プール 年 30回 36回 ② 年 51回	①体育館 36回 プール 36回 ②55回	① 体育館 年 36回 プール 年 36回 ② 年 53回	① 体育館 年 36回 プール 年 36回 ② 年 55回	① 体育館 年 36回 プール 年 36回 ② 年 55回	① 体育館 年 36回 プール 年 36回 ② 年 55回	① 体育館 年 36回 プール 年 36回 ② 年 55回	76.52%	△
	評価コメント①	①障がい児スポーツ教室(体育館、プール) ＜5年間の具体的な取り組み＞ 体育館では、土曜日(月2～3回)の午後、障がい児(者)を対象に、有償ボランティア指導員によるスポーツ教室を実施した。体育館では体操、マラソン、バドミントン、バスケットボール、トランポリン等を実施した。また、お楽しみ会・クリスマス会を企画し、普段の教室とは違うイベントの開催も行った。 プールでは、土曜日(月2～3回)の午後、障がい児(者)を対象に、温水プールでは水泳を実施した。 新型コロナウイルス感染防止対策のため、密にならない人数での定員開催となったが、指導員の協力により、参加者に合わせた細かな指導を行うことができた。 ＜5年間の総括＞ 達成率は87.5%となり、評価は△となった。新型コロナウイルス感染が拡大していたため、2020年度から2021年度の2年間は、体育館・プール共に開催中止となった。実施状況の開催数は見込み値のため、実際の開催回数は0回となる。2022年度からは、感染防止対策として、密を回避するため集団競技は自粛、参加時の体調確認・検温・消毒の徹底などを行い、実施計画に近い数の教室を開催することができた。新型コロナウイルスの影響により、通常とは異なる運営が求められた5年間であったが、指導員の協力により、事業を継続できた。後期では、指導員の募集等、教室の運営体制を整え、教室の開催数を増やせるよう検討する。						実績→	①体:34回 プ:26回 ②37回	①体:5回 プ:2回 ②28回	①体:5回 プ:6回 ②44回	①体:29回 プ:22回 ②16回	①体:33回 プ:30回 ②30回		
	評価コメント②	②指定管理者による教室・イベント事業 ＜5年間の具体的な取り組み＞ 【室内プール】 2019年 ふれあいこども祭りポッチャ体験327人、南第二地区青少年健全育成委員会ポッチャ講習会40人 2020年 高ヶ坂・成瀬地区協議会ポッチャ部発足 ポッチャ大会40名 (すみれ教室2回開催) 2021年 13回、ポッチャ&モルック体験 8回 160名、シッティングバレー体験 2回 25名、フライングディスク体験 2回 101名、(すみれ教室プール 1回)、 2022年 9回、ポッチャ&モルック体験会 全3回、シッティングバレー体験会 全4回、フライングディスク体験会 全2回、(すみれ教室プール 22回) 2023年 18回、ポッチャ&モルック体験会 全5回、シッティングバレー体験会 全4回、フライングディスク体験会 全9回、(すみれ教室プール 30回) 【総合体育館】 「障がい者卓球教室」 2019年 58名 2020年 0名 2021年 0名 2022年 0名 2023年 27名 「イベント事業」 スポーツ振興事業、自主事業を合わせ年3回イベント開催。(こどもスポーツチャレンジ、チャレンジマッスル、エンジョイ☆スポーツ)、一社)スポーツウィズハートと連携し、障がい者スポーツを積極的に実施 【野津田公園】 ・パラ(障がい者)陸上競技教室 関東パラ陸上競技協会との共催により、今年で開始8年目の実施となる「パラ(障がい者)陸上競技教室」では、障害のレベルと個人の体力・技術のレベルに合わせた競技教室。1年間で6ヶ月毎の2シリーズ、4回実施。2023年度参加者は81名。 ＜5年間の総括＞ 新型コロナウイルス感染症拡大防止による制限もあった中で、障がい者スポーツの実施が定着し、各施設のイベントでは東京都との連携事業を行うことで新しい取り組みも実施することができた。													
	1-4-2	小学生を対象とした障がい者スポーツ体験教室開催	市内の小学校で、障がい者スポーツの体験教室キャラバンを行います。	オリパラ推進課 スポーツ振興課	学校 競技団体	年間参加者数	年 710人	1,000人	年 1,000人	年 1,000人	年 1,000人	年 1,000人	年 1,000人	111.80%	◎
	評価コメント	＜5年間の具体的な取り組み＞ 市内小学校を対象にパラバドミントンの体験教室を 実施し、競技説明や競技用車いす体験、バドミントン体験を行った。 2022年からは、日本パラバドミントン連盟と連携して、1クラス1時間実施でなく2時間実施とし、各体験時間の拡充だけでなく、選手が運転する車の見学や車いすでの段差の乗り越え方等、障がい理解の普及啓発の内容も織り込んだ内容も行った。(全部で4校) 通常時の体験会の内容もより体験時間が長くなるよう、日本パラバドミントン連盟と話し合いながら工夫をした。 ＜5年間の総括＞ 新型コロナウイルスの影響で一時的目標値を下回った年度があったが、スポーツ活動が再開し始めた2022年度には1,200名を超える参加があった。2023年度は2022年度を下回っているものの、学校数としては同じの15校の実施ができた。多くの小学校から開催を望まれる体験会になっており、参加した児童や学校側からも大変好評を頂いている。						実績→	年 1,465人	年 760人	年 794人	年 1,235人	年 1,116人		
	1-4-3	障がい者のスポーツ参加機会の提供	インクルーシブスポーツ※3を推進し、障がい者にスポーツ施設開放利用の周知をすることにより、利用者数を増やします。	指定管理者 スポーツ振興課	障がい福祉課 公園緑地課	スポーツ施設 開放年間利用者数	年 20,401人	22,000人	検討 調整	調整	年 21,000人	年 21,000人	年 22,000人	37.90%	△
		＜5年間の具体的な取り組み＞ ※下欄に記載 ＜5年間の総括＞ ※下欄に記載						実績→	検討 一部実施	調整 一部実施	6,826人	8,944人	8,337人		
	評価コメント	＜5年間の具体的な取り組み＞ 【室内プール】 2019年 トレーニング室利用人数7人、車椅子のままマシン利用が可能な台数を増やした。施設改修においてみんなのトイレを改修した。プールには移動式スロープ階段を新設した。 2020年 50mプールに移動式スロープ階段を設置することで、入退水をしやすくするほか、町田市のバリアフリーマップ、TOKYO障がいスポーツナビに施設紹介を掲載し、障がい者の方の利用促進に努めた。 2021年 障がい者利用者数、プール 3,936人 トレーニング室 247人、町田市のバリアフリーマップ、TOKYO障がいスポーツナビに施設紹介を掲載 2022年 障がい者利用者数、プール…4,197人、トレーニング室…621人 2023年 障がい者利用者数、プール…4,200人、トレーニング室…970人 【総合体育館】 トレーニング室の障がい者利用者数 2019年 1654名 2020年 1052名 2021年 1116名 2022年 1400名 2023年 1566名 【野津田公園】 野津田公園の自主事業である「パラ(障がい者)陸上競技教室」を通じて、市外の障がい者へのスタジアム認知度を高めることに努めました。また、著名なパラ競技者が利用することも多く、各メディアの取材や撮影などの協力も多く実施しました。 ＜5年間の総括＞ 新型コロナウイルス感染症拡大防止による制限もあった中で、各施設においては、障がい者の利用促進のための周知活動を行うことができた。													

(4) 障がい者のスポーツ推進	その他 関連取組	障がい者スポーツ大会の開催	-	○
	評価 コメント	<p><5年間の具体的な取り組み></p> <p>2019年度・2022年度・2023年度に町田市立総合体育館で、障がい者スポーツ大会を実施した。市内福祉施設の障がい者、個人の障がい者が参加した。各施設職員以外にも、スポーツ推進委員、障がい児スポーツ教室指導員、町田ライオンズクラブ、町田ガールスカウトなどのボランティアスタッフも数多く参加し、大会運営に携わった。徒競走、パン取り競争、対抗リレー、ボッチャ、バドミントン、卓球、フライングディスク等の競技を実施した。また観覧できるアトラクションとして、ソーシャル・ワーカーズ、ASV ペスカドーラ町田チアダンスチームFiore、利根川KKスタジオエアロビクスによるダンスを実施した。延べ参加人数 909人(2019年)、451人(2022年)、849人(2023年)</p> <p><5年間の総括></p> <p>2020年度・2021年度は、コロナウイルスの影響により中止となった。</p> <p>2019年度は、通常どおりの開催ができたが、2022年度・2023年度は、コロナウイルス感染拡大の影響を受け、マスク着用、消毒の徹底などの感染対策を行い、イベント規模を通常より縮小しての開催となった。</p> <p>2022年度は、感染対策のため道具を使った集団競技を中止した代わりに、見て楽しめるアトラクションをプログラムに取り入れる等の工夫を図り、大会を運営した。</p> <p>2023年度は、第50回の記念大会であったため、FC町田ゼルビアのマスコットキャラクター「ゼルビー」や、バルーンアートのボランティアを呼び、大会を盛り上げた。</p>		

※2 ニュースポーツ・・・、技術やルールが比較的簡単で、子どもから高齢者まで幅広い層を対象に「誰もが容易に楽しめる」ことを目的として考案されたスポーツ。

※3 インクルーシブスポーツ・・・子どもから高齢者まで、障がい者も健常者も一緒に楽しめるスポーツ。

町田市スポーツ推進計画19-28アクションプランと評価（2019～2023年度）

基本目標2 スポーツに関わる人材と組織の充実

○基本施策(1)スポーツを支える人材の育成の評価

指標	スポーツに関するボランティアを行った割合	現状値 2018	5.50%	目標値 2023	15.00%	実績値 2023	3.70%	達成率	24.67%	評価	△
前期評価 次期課題	まちだサポーターズは、スポーツ祭東京2013(東京国体)を契機に発足し、前期アクションプランの期間においては、「東京2020オリンピック・パラリンピック大会」での活躍を目標に活動が続けられてきました。後期アクションプランにおいては、今後 もスポーツに関するボランティア活動が継続されるよう、さらなる活動の充実をはかる必要があります。 また、中学校部活動の地域移行について、国の検討部会から提言などが出されことから、今後、地域のスポーツ指導者の需要が高まることが予測されます。市内の大学や企業との連携、指導者が所属する団体や、地域でスポーツ機会を提供する各 団体、(体育協会、スポーツ推進委員、地域スポーツクラブ)との情報共有等により、指導者の確保や、質を高めることが求められます)										

基本施策	整理番号	取 組 項 目	取 組 内 容	取組主体	連携先	指標	現状値	目標値	2019	2020	2021	2022	2023 【目標値】	%	評価
(1) ス ポー ツ を支える人材の育成	2-1-1	大学・企業連携によるスポーツを支える人材の派遣	大学・企業連携により、子どもの遊びやスポーツ指導等、学生や民間企業が地域で活動する環境を整えます。	スポーツ振興課	企画政策課 大学 小中学校 教育委員会 子ども生活部	連携団体数	1団体	7団体	4団体 検討 調整	5団体 検討 調整	6団体 検討 調整	7団体	7団体	100.00%	○
	評価 コメント	<5年間の具体的な取り組み> 2019年度は、4団体(法政大学、国士舘大学、第一生命株式会社、日本体育大学)と連携し、各団体の教員や学生等の所属する人材を派遣いただき、小学校での走り方教室等を実施した。 2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から、3団体(法政大学、国士舘大学、第一生命株式会社)と連携を予定していた教室等が中止となったが、1団体(日本体育大学)と連携し、所属する人材を派遣いただき、親子(保護者と未就学児)を対象とした運動教室等を実施した。 2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から、3団体(法政大学、国士舘大学、第一生命株式会社)と連携を予定していた教室等が中止となったが、2団体(法政大学、日本体育大学)と連携し、所属する人材を派遣いただき、高齢者向けの運動動画の作成等を実施した。 2022年度は、5団体(法政大学、日本体育大学、国士舘大学、桜美林大学、第一生命株式会社)と連携し、各団体の教員や学生等の所属する人材を派遣いただき、小学校での走り方教室等を実施した。 2023年度は、7団体(法政大学、日本体育大学、桜美林大学、玉川大学、国士舘大学、和光大学、日本生命保険相互会社、明治㈱)と連携し、各団体の教員や学生等の所属する人材の派遣に関する調整に参加いただき、スポーツ教室の開催や大会ボランティア等に協力をいただいた。 <5年間の総括> 前期アクションプランの期間では、2020年度から2022年度にかけ、新型コロナウイルス感染症の拡大により、人が集まるイベント等が中止されることが多かった他、大学では、学外活動の原則禁止などの対策がとられていた時期もあり、各団体から人材を派遣いただき、教室等のイベントを実施することが非常に困難な時期があった。 後期アクションプランでは、より多くの機会で人材派遣の相談等を実施し、様々な団体と連携し、地域のスポーツ振興と一緒に進めていただけるよう、働きかけていきたい。 とくに子どもマラソン大会の運営に関しては、これまで1大学としか連携がなかった町田市こどもマラソン大会に3大学に新たに協力いただくなど関係作りができた他、町田市と包括連携協定を締結している2社と2年連続で連携し、参加者が楽しめるPRブースの出店等でマラソン以外の部分を盛り上げていただいた。							実績 →	3団体 検討 調整	1団体 検討 調整	2団体 検討 調整	5団体 調整		
	2-1-2	まちだサポーターズの活動機会の充実	スポーツ祭東京2013を契機としたスポーツボランティア「まちだサポーターズ」が活躍できる環境を整え、活動参加者数を増やします。	オリパラ推進課	スポーツ振興課	年間延べ活動参加者数	年 3,038人	3,300人	年 3,300人	年 3,300人	年 3,300人	年 3,300人	年 3,300人	102.54%	○
	評価 コメント	<5年間の具体的な取り組み> 東京2020オリンピックに向けて、自転車ロードレースのコースサポーターや、聖火リレーのボランティアの募集を広報誌の活用、東京都の電子申請システムを活用するなど積極的に行うことで、会員数の増加に取り組んだ。 また、活動機会の充実及び組織の活性化をするため、自主事業として聖火リレーコースを巡るゴミ拾い企画や、10周年イベントを実施した。 <5年間の総括> 2020年から2022年までは、コロナウイルス感染拡大の影響を受け、スポーツ大会やイベント等の中止が数多くあり、ボランティア活動する機会が少なく難しかったため停滞した時期もあったが、2023年度からはスポーツ大会やイベント等もコロナ前に戻ってきてボランティア活動する機会も増えている。また、「まちだサポーターズ」も発足10周年を迎え、活動参加者数も徐々に増えている。今後も活躍できる環境を提供し、活動参加者数の増加を目指す。							実績 →	年 3,405人	年 974人	年 2,474人	年 2,552人		
	2-1-3	地域密着型スポーツ推進委員の育成	スポーツ推進委員が地域と連携し活動できるよう、市内10地区に均等に配置します。	スポーツ振興課 スポーツ推進委員	地区協議会 町内会自治会 まちだサポーターズ ボランティアコーディネータ	スポーツ推進委員が関わる地区協議会数	0地区	10地区	0地区	3地区	6地区	6地区	10地区	30.00%	△
	評価 コメント	<5年間の具体的な取り組み> 2019年度から2021年度にかけては、スポーツ推進委員が新たに地域との関係性を構築することが困難な状況にあったが、2022年度から徐々に、関係性を持ち地域で開催されるレクリエーション大会に関わるなど、連携体制をとることができるようになった。 2023年度は、新たな地区を加え、3地区(鶴川地区、南地区、小山地区)にてスポーツ推進委員と地域が連携した取組を実施することができました。 <5年間の総括> スポーツ推進委員が新たに地域へ入っていくことの難しさに加えて、地域からの要望の有無などの課題もあり、実施できた地区は3地区にとどまった。 実施できた地区は、担当する推進委員が元から地域に深く関わっている人材だったことで実施することができた。 今後はそうした地域とのつながりを持った人材の発掘をするとともに、地域の要望があった際に推進委員に繋げられるような体制を作っていく。							実績 →	0地区 検討	0地区 検討	0地区 検討	1地区		
その他 関連取組	有資格指導者データベースの作成・情報提供													-	○
評価 コメント	<5年間の具体的な取り組み> 体育協会事務局及び協会内のスポーツ育成委員会と連携し、各競技団体の有資格者データを作成するための調査及び活用方法等について検討を行った。 <5年間の総括> 2020年からコロナウイルス感染拡大の影響を受けて、スポーツ祭まちだや市民体育祭等のイベントや大会を開催することが難しかったこと、体育協会加盟の各競技団体においても、活動中止や大会等を制限されていたこともあり、有資格指導者データベースの作成・情報提供の検討が進まなかった。後期アクションプランでは、体育協会と協力し、各競技団体及び競技の特性に応じて有資格指導者のデータ作成に向けた調査を進め、他自治体等の取り組みも参考にしながら活用方法・課題等を洗い出し、データベース化の実現に向けて事業を進めていきたい。														

○基本施策(2)スポーツを支える団体の支援・育成の評価											
指標	各主体が連携・共同して実施した事業の数	現状値 2018	0回	目標値 2023	5回	実績値 2023	5回	達成率	100.00%	評価	○
前期評価 次期課題	まちだサポーターズは、スポーツ祭東京2013(東京国体)を契機に発足し、前期アクションプランの期間においては、「東京2020オリンピック・パラリンピック大会」での活躍を目標に活動が続けられてきました。後期アクションプランにおいては、今後もスポーツに関するボランティア活動が継続されるよう、さらなる活動の充実をはかる必要があります。 また、中学校部活動の地域移行について、国の検討部会から提言などが出されことから、今後、地域のスポーツ指導者の需要が高まることが予測されます。市内の大学や企業との連携、指導者が所属する団体や、地域でスポーツ機会を提供する各団体、(体育協会、スポーツ推進委員、地域スポーツクラブ)との情報共有等により、指導者の確保や、質を高めることが求められます)										

基本施策	整理番号	取組項目	取組内容	取組主体	連携先	指標	現状値	目標値	2019	2020	2021	2022	2023 【目標値】	%	評価
(2)スポーツを支える団体の支援・育成	2-2-1	地域スポーツクラブの活動支援と地域活動の推進	地域スポーツクラブの活動を支援し、地域と連携した活動の定着を図ります。	スポーツ振興課 地域スポーツクラブ	スポーツ推進委員 学校 町内会自治会	町内会自治会と連携したクラブ数	2クラブ	5クラブ	2クラブ 調査	2クラブ 検討 調整	3クラブ 検討 調整	4クラブ 検討 調整	5クラブ	100.00%	○
	評価 コメント	<5年間の具体的な取り組み> 2019年度は、2クラブ(町田スポーツ文化ネットワーク、おやまスポーツ文化倶楽部)が町内会自治体等の地域主体と連携し、主に子どもを対象としたスポーツ機会の提供等のイベント等を実施した。 2020年度は、2クラブ(町田スポーツ文化ネットワーク、おやまスポーツ文化倶楽部)が町内会自治体等の地域主体と連携し、主に子どもを対象としたスポーツ機会の提供等のイベント等を実施した。 2021年度は、3クラブ(町田スポーツ文化ネットワーク、おやまスポーツ文化倶楽部、法制クラブ)が町内会自治体等の地域主体と連携し、主に子どもを対象としたスポーツ機会の提供等のイベント等を実施した。 2022年度は、6クラブ(アスレチッククラブ町田、ドリームスポーツ、成瀬鞍掛スポーツクラブ、相原地域総合スポーツクラブ、町田スポーツ文化ネットワーク、おやまスポーツ文化倶楽部)が町内会自治体等の地域主体と連携し、主に子どもを対象としたスポーツ機会の提供等のイベント等を実施した。 2023年度は、5クラブ(アスレチッククラブ町田、なんまち絆クラブ、相原地域総合スポーツクラブ、町田スポーツ文化ネットワーク、おやまスポーツ文化倶楽部)が町内会自治体等の地域主体と連携し、主に子どもを対象としたスポーツ機会の提供等のイベント等を実施した。 <5年間の総括> 前期アクションプランの期間では、2020年度から2022年度にかけ、新型コロナウイルス感染症の拡大により、人が集まるイベントの自粛が促されるなどの対策がとられ、地域スポーツクラブが従来の活動を行うことが困難な時期があった。スポーツ施設を利用できない時期もあり、定期的なスポーツ機会の提供が困難となった地域スポーツクラブでは、会員数が減少する時期もあったが、それぞれの団体による努力や工夫、地域との連携等により、活動を継続させている。後期アクションプランでは、より地域との関りを大事にしながら、活動を継続いただけるよう働きかけていきたい。						実績 →	2クラブ 調査	2クラブ 検討 調整	3クラブ 検討 調整	6クラブ 検討 調整	5クラブ 検討 調整		
	2-2-2	【再掲】 家族で参加できるスポーツイベントの開催	すば一つ祭まちだや市民体カテスト等のイベントが連携し、家族で参加できるスポーツイベントを開催します。	スポーツ振興課 スポーツ推進委員 体育協会 指定管理者	ホームタウンチーム まちだサポーターズ	市民体カテスト 年間参加者数 (20歳代～50歳代まで)	年 75人	450人	検討	年 450人	年 450人	年 450人	年 450人	38.20%	△
	評価 コメント	<5年間の具体的な取り組み> 特に参加者の少ない20代から40代の働き世代に多く参加してもらえるよう、指定管理者と連携して、親子で楽しめるニュースポーツ体験コーナーや的あてドッチビーの設置を行い、多くの参加者でにぎわった。 また、測定対象外の17歳以下、75歳以上の方の測定用紙や体組成測定を用意して幅広い年代の方にご参加いただいた。特に子どもには参加賞の配布や測定後にスポーツ推進委員からアドバイスをもらえるようにした。 町田市と包括連携協定を締結している明治㈱と連携し、骨密度測定を実施していただいた。 <5年間の総括> 2020年から新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、スポーツ祭まちだや市民体カテスト等のイベントを、工夫を図りながら開催することが多かった。2021年度からは、市民体カテストを子どもと一緒に家族で参加できるスポーツイベントとして開催したが、参加者数は目標値に及ばなかったものの、毎年動線の整理や適切な人員配置を考えるなど、運営面の工夫はできている。高齢の方の中には、体組成等の測定のみ参加する方もいることから、体カテストに参加してもらえるようさらなる工夫が必要である。今後も関係団体等と連携し、スポーツ祭まちだ等イベントを統合して開催する方法を模索していきたい。						実績 →	検討	検討	年 151人	年 144人	年 172人		
	2-2-3	まちだサポーターズの組織化	まちだサポーターズを組織化し、スポーツイベントの運営に欠かせない存在に育成します。	オリパラ推進課	スポーツ振興課	まちだサポーターズの育成	検討	実施	オリンピック・パラリンピック開催に向けた活動拡充	オリンピック・パラリンピック後の体制づくり	活動方針 検討	活動方針 決定	実施	100.00%	○
	評価 コメント	<5年間の具体的な取り組み> 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、会員数の増加や活動機会の増加に取り組んだ。 2022年度には、オリンピック・パラリンピック等国際大会推進課から、スポーツ振興課に所管を移行した。 組織の中心的存在である総務班の増員を行った。自主的な意思決定、また活動を継続していくために定款や活動細則を作成し、総会を開催したほか、スキルアップ研修会を実施した。会員同士の連携を強化するため交流会も実施した。 <5年間の総括> 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、オリンピック・パラリンピック等国際大会推進課からスポーツ振興課に所管が移った際に活動数が減少するなど、組織の継続が危ぶまれる時期もあったが、組織としてのルールを作成、自主的な企画の実施やスキルアップのための研修会の実施、会員同士の交流会の実施など新たな取り組みを通じて組織としての基盤を作ることができた。 今後もまちだサポーターズの活動を継続していけるよう、活動機会の充実及び会員のスキルアップなどサポートを継続していく。						実績 →	オリンピック・パラリンピック開催に向けた活動拡充	オリンピック・パラリンピック後の体制づくり	活動方針 検討 活動方針 決定	実施	実施		

町田市スポーツ推進計画19-28アクションプランと評価（2019～2023年度）

基本目標3 スポーツ環境の充実

○基本施策(1)「する」スポーツ環境の充実の評価

指標	「子どものスポーツや外遊びの環境が悪くなった」という回答の割合	現状値 2018	56.50%	目標値 2023	40.00%	実績値 2023	43.80%	達成率	93.67%	評価	○
前期評価 次期課題	「スポーツに関する市民意識調査アンケート」によると、「今後、町田市のスポーツ施設に求めることはありますか」という質問で、「身近なところで利用できる施設の新設」が37.8%と最も多い結果となっています。市民の誰もが身近な場所でスポーツを実施できるよう、今後も継続してスポーツ施設の整備を進めていく必要があります。										

基本施策	整理番号	取組項目	取組内容	取組主体	連携先	指標	現状値	目標値	2019	2020	2021	2022	2023 【目標値】	%	評価
（１） 「する」 スポーツ 環境の 充実	3-1-1	【再掲】 「まちとも※1」と連携した放課後のスポーツ推進	スポーツ推進委員や地域スポーツクラブが「まちとも」で子どもたちにスポーツの楽しさを伝えます。	スポーツ振興課 地域スポーツクラブ スポーツ推進委員	児童青少年課 まちとも運営協議会	スポーツ推進委員・地域スポーツクラブと連携した地区数	2地区	5地区	3地区	4地区	5地区	5地区	5地区	60.00%	△
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> 2019年度は、3地区（町田第二地区、木曽地区、小山地区）にて、地域スポーツクラブ（町田スポーツ文化ネットワーク、おやまスポーツ文化倶楽部）やスポーツ推進委員が、放課後等子ども遊び場見守り事業「まちとも」にてスポーツプログラムを提供し、延べ2,090人の児童が参加しました。 2020年度は、新型コロナウイルスの影響により中止になった地区が2地区（小山地区、忠生地区）ありますが、2地区（町田第二地区、木曽地区）では、地域スポーツクラブ（町田スポーツ文化ネットワーク、おやまスポーツ文化倶楽部、スポーツ塾J.VIC）により「まちとも」にてスポーツプログラムを提供し、延べ720人の児童が参加しました。 2021年度は、4地区（町田第二地区、木曽地区、小山地区、玉川学園・南大谷地区）にて、地域スポーツクラブ（町田スポーツ文化ネットワーク、おやまスポーツ文化倶楽部）により「まちとも」にてスポーツプログラムを提供し、延べ720人の児童が参加しました。 2022年度は、3地区（木曽地区、小山地区、玉川学園・南大谷地区）にて、地域スポーツクラブ（町田スポーツ文化ネットワーク、おやまスポーツ文化倶楽部、スポーツ塾J.VIC）により「まちとも」にてスポーツプログラムを提供しました。 2023年度は、3地区（木曽地区、小山地区、玉川学園・南大谷地区）にて、地域スポーツクラブ（町田スポーツ文化ネットワーク、おやまスポーツ・文化倶楽部、スポーツ塾J.VIC）により「まちとも」にてスポーツプログラムを提供しました。 <5年間の総括> 前期アクションプランの期間では、2020年度から2022年度にかけ、新型コロナウイルス感染症の拡大により、各学校にて「まちとも」自体の中止や、外部の方の敷地内への立ち入り禁止等の対策がなされ、地域スポーツクラブやスポーツ推進委員と各学校のまちともとの連携が困難な場面が多くありました。後期アクションプランでは、引き続きまちともと地域スポーツクラブやスポーツ推進委員との連携の拡大を図る他、まちとも以外の場面でも、地域の子どもたちに向けたスポーツ機会の提供に取り組んでいただくため、広報等の支援を継続して実施していきたい。						実績→	3地区	2地区	4地区	3地区	3地区		
	3-1-2	大規模スポーツ広場7箇所を含む、調整池、公園・学校予定地等におけるスポーツ施設整備	大規模なスポーツ広場は公のスポーツ施設として整備し、その他の施設は市民利用を拡大します。	スポーツ振興課 公園緑地課	施設課 営繕課 下水道総務課 スポーツ広場管理運営委員会	スポーツ施設数（公の施設）	29施設 （有料開放している学校4施設含む）	35施設	31施設	31施設	33施設	35施設	35施設	114.29%	◎
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> ・2019年度から2023年度までに11施設の整備を完了した。 【2019年度】鶴間公園グラウンド・鶴間公園多目的室・芹ヶ谷公園グラウンド 【2020年度】常盤公園グラウンド・山王塚公園グラウンド・薬師池西公園体験室・工房 【2021年度】野津田公園丘の上グラウンド・成瀬鞍掛グラウンド 【2022年度】小山上沼グラウンド・野津田公園北テニスコート・本町田後田グラウンド ・境川金森調節池上部（旧西田スポーツ広場）公園の基本設計を実施した。2027年度から公の施設として利用を開始することを目指し、2024年度、2025年度に公園実施設計を行う。 <5年間の総括> 達成率は114%となり、評価は◎となった。後期においても、大規模なスポーツ広場を中心に計画的に公のスポーツ施設整備を進めていく。						実績→	31施設	35施設	37施設	40施設	40施設		
	3-1-3	中小規模・民有地スポーツ広場利用のルール作成	中小規模・民有地スポーツ広場は利用のルールを作成し、市民利用を拡大します。	スポーツ振興課	公園緑地課 水再生センター スポーツ広場管理運営委員会	作成したルールに基づく利用の実施	未実施	実施	調査検討	調整作成	実施	実施	実施	100.00%	○
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> 2019年度は、スポーツ広場を管理する各スポーツ広場管理運営委員会にアンケートを実施し、ルール内容を検討した。 2020年度は、ルール内容の検討をするとともに、スポーツマップ作成時に、掲載するスポーツ広場の管理運営委員会と調整し、子どもたちがボール遊び等で利用できる時間や利用上のルール等を合わせて掲載し、情報発信をした。2地区（南エリア、高ヶ坂・成瀬エリア）について、スポーツマップを作成した。 2021年度は、2地区（小山・小山ヶ丘エリア、相原エリア）のスポーツマップを作成し、管理運営委員会と調整の上、ルール等掲載し、市民利用の拡大を図った。 2022年度は、3地区（玉川学園エリア、南大谷エリア、町田第一エリア、町田第二エリア）のスポーツマップを作成し、管理運営委員会と調整の上、ルール等掲載し、市民利用の拡大を図った。 2023年度は、3地区（鶴川エリア、木曽エリア、忠生エリア）のスポーツマップを作成し、管理運営委員会と調整の上、ルール等掲載し、市民利用の拡大を図った。 <5年間の総括> 前期アクションプランの期間では、これまではなかったスポーツマップを作成するにあたり、一部の管理運営委員会からは広場を使用する方がルールを守ってくれるか不安だ、というお話もありましたが、その後は大きな問題もなく、皆さんでご利用いただいていると聞いています。2年目に降に作成する地域で、スポーツマップを配布した小学校からお礼のお声をいただくこともあることからぜひ協力いただきたいと話すと、協力的な管理運営委員会が多くありました。 後期アクションプランでは、スポーツマップの時点更新をする中で、継続して各スポーツ広場の市民利用拡大を図りたい。						実績→	調査検討	調整作成	調整実施	調整実施	調整実施		
	3-1-4	公園のスポーツ利用の促進	スポーツ利用できる公園をスポーツマップに掲載し、地域の身近なスポーツができる場の情報提供を行います。	スポーツ振興課 公園緑地課	町内会自治会	利用方法の見直し	-	10地区	検討調査	2地区	4地区	7地区	10地区	100.00%	○
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> ・2020年度は、2地区（南エリア、高ヶ坂・成瀬エリア）におけるスポーツマップの作成し配布した。 ・2021年度は、2地区（小山・小山ヶ丘エリア、相原エリア）におけるスポーツマップを作成し、配布をした。 ・2022年度は、3地区（玉川学園エリア、南大谷エリア、町田第一エリア、町田第二エリア）におけるスポーツマップを作成し、配布をした。 ・2023年度は、3地区（鶴川エリア、木曽エリア、忠生エリア）におけるスポーツマップの作成し配布した。 <5年間の総括> ・実施計画通りに10地区のスポーツマップを作成できた。						実績→	検討調査	2地区	4地区	7地区	10地区		

（１） 「ずる」スポーツ環境の充実	3-1-5	夜間照明設備の設置	夜間照明設備を設置することにより利用時間の延長を行います。	スポーツ振興課	学校教育部 小中学校 営繕課 公園緑地課	夜間照明設置	6施設	9施設	検討	検討	調整	調整	9施設	100.00%	○
	評価 コメント	<5年間の具体的な取り組み> 2023年度から公の施設として小山上沼グラウンド、本町田後田グラウンドの供用開始を行った。 <5年間の総括> 2023年度の供用開始に向けて、計画どおり進めることができた。							実績 →	7施設	7施設	7施設	9施設		
	3-1-6	大学・企業連携によるスポーツ施設の市民利用拡大	大学・企業連携により、各団体が所有するスポーツ施設を市民が利用できるようにします。	スポーツ振興課	企画政策課 大学	連携団体数	2団体	7団体	4団体 検討 調整	5団体 検討 調整	6団体 検討 調整	7団体	7団体	42.85%	△
	評価 コメント	<5年間の具体的な取り組み> 2019年度は、4団体（法政大学、東京家政学院大学、国士館大学、サレジオ工業高等専門学校）と、各団体が所有するスポーツ施設の市民利用拡大に向けた調整、検討を行い、一部では市民の方が実際にスポーツ施設を利用することができた。 2020年度は、1団体（東京家政学院大学）と、団体が所有するスポーツ施設の市民利用拡大に向けた調整を行い、市民の方が実際にスポーツ施設を利用することができた。 2021年度は、2団体（法政大学、東京家政学院大学）と、団体が所有するスポーツ施設の市民利用拡大に向けた調整を行い、市民の方が実際にスポーツ施設を利用することができた。 2022年度は、2団体（法政大学、東京家政学院大学）と、団体が所有するスポーツ施設の市民利用拡大に向けた調整を行い、市民の方が実際にスポーツ施設を利用することができた。 2023年度は、2団体（法政大学、東京家政学院大学）と、団体が所有するスポーツ施設の市民利用拡大に向けた調整を行い、市民の方が実際にスポーツ施設を利用することができた。 <5年間の総括> 前期アクションプランの期間では、2020年度から2022年度にかけ、新型コロナウイルス感染症の拡大により、大学では敷地内への学校関係者以外の立入制限や、対面授業の中止等の対策がとられ、コロナ終息の見通しがない中では、敷地内にあるスポーツ施設の市民利用に関する調整等を実施することが困難だった。新型コロナウイルス感染症が、感染症法上の5類に指定されたことから、2023年度から新たに具体的な調整等を進めている。 後期アクションプランでは、前期アクションプランでは十分に進められたなかった、各団体の所有するスポーツ施設の市民利用拡大に向け、新型コロナウイルスが拡大する中でも、関係性の構築を続けてきた各団体との調整をさらに重ね、着実に取組を進めていきたい。							実績 →	4団体 検討 調整	1団体 検討 調整	2団体 検討 調整	2団体 検討 調整		
	その他 関連取組	スポーツ施設改修に伴う施設の機能向上（室内プール・総合体育館改修、温浴施設整備）、クラブハウスを活用したスポーツ環境の充実												-	○
評価 コメント	<5年間の具体的な取り組み> ○スポーツ施設改修に伴う施設の機能向上（室内プール・総合体育館改修、温浴施設整備） 【室内プール】 2019年秋 大規模改修終了 2020年 温浴施設の整備工事を開始 2021年 温浴施設の整備工事が終了した（2022年12月17日） 2022年 温浴施設が開業 【総合体育館】 総合体育館の今後の在り方について、検討を行った。 ○クラブハウスを活用したスポーツ環境の充実 ・教育センタークラブハウス、南大谷小学校クラブハウスについては、地域スポーツクラブに維持・管理運営を委託し、利用が少ない時間帯等を活用して、卓球開放や輪投げ開放、体幹教室などを実施し、幅広い世代がスポーツに関わる機会の提供を継続して行った。 ・町田第四小学校、武蔵岡中学校クラブハウスについては、シルバー人材センターに維持・管理運営を委託し、学校開放利用団体が使用する際に、受付業務等を継続して行った。 ・七国山小学校クラブハウスについては、七国山クラブ（地域スポーツクラブ）が維持・管理運営を継続して行った。 <5年間の総括> ○スポーツ施設改修に伴う施設の機能向上（室内プール・総合体育館改修、温浴施設整備） ・室内プールの大規模改修及び温浴施設等の整備工事が完了した。 ・総合体育館の今後の在り方について、引き続き庁内の調整を図っていく。 ○クラブハウスを活用したスポーツ環境の充実 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた時期もあったが、スポーツをする場として市民に提供することができた。地域スポーツクラブが維持・管理運営していくことで、拠点として活用できるように今後も検討していく必要がある。														

○基本施策(2)「みる」スポーツ環境の充実の評価

指標	「町田市内でスポーツ観戦した」という回答の割合	現状値 2018	12.80%	目標値 2023	40.00%	実績値 2023	12.20%	達成率	30.50%	評価	△
前期評価 次期課題	前期アクションプランの期間においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、無観客による開催や、試合会場への入場制限などが多くあり、年間観客者数がコロナ前の半分以上にまで下がった時期もありましたが、徐々に観客者数が戻りつつあります。後期アクションプランでは、リモート観戦しかしたことがない方などにも、町田市内でのスポーツ観戦に興味を持ってもらえるような取組が必要です。										

基本施策	整理番号	取 組 項 目	取 組 内 容	取組主体	連携先	指標	現状値	目標値	2019	2020	2021	2022	2023 【目標値】	%	評価
（２）「みる」スポーツ環境の充実	3-2-1	総合体育館、陸上競技場におけるスポーツ観戦環境整備	陸上競技場を15,000人収容のスタジアムに改修し、競技場の活用の幅を広げ、市民のにぎわいを創出します。 また、総合体育館に大型映像装置を整備し、スポーツの観戦環境の充実を図ります。	スポーツ振興課 公園緑地課 営繕課	財政課（ふるさと納税）	-	未整備	整備施設の有効活用	①陸上競技場：整備工事 ②総合体育館：整備工事	①陸上競技場：整備完了 ②総合体育館：整備完了	—	—	—	100.00%	○
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> 【総合体育館】 総合体育館メインアリーナ大型映像装置整備工事：2019年度実施 大型映像装置 2面（フルカラーLED）を設置した。 【町田GIONスタジアム（市立陸上競技場）】 陸上競技場増席工事：2019～2021年度実施 バックスタンドを新たに整備し、約10,000席→約15,000席に増席した。 <5年間の総括> 町田GIONスタジアム（市立陸上競技場）を15,000人収容のスタジアムに改修工事を行い、競技場の活用の幅を広げ、市民のにぎわいを創出を図りました。 また、町田市立総合体育館には大型映像装置（2面）を整備し、ホームタウンチームの試合や大規模スポーツ大会等、スポーツの観戦環境の充実を図りました。						実績→	①陸上競技場：整備工事 ②総合体育館：整備工事	①陸上競技場：整備工事 ②総合体育館：整備工事	①陸上競技場：整備完了 ②総合体育館：整備完了	—	—		
	3-2-2	【再掲】 小学校連合体育大会の開催	市内全小学校が参加する連合体育大会を開催します。	教育委員会	スポーツ振興課	連合体育大会 参加学校数	未開催	42校	14校	42校	42校	42校	42校	100.00%	○
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> 2019年度は参加希望校による学校連合体育大会ブレ大会を実施し、町田市立小学校14校の6年生が町田GIONスタジアム（町田市立陸上競技場）に集まり、各種競技を行った。 2020年度は参加希望校による学校連合体育大会ブレ大会を実施し、町田市立小学校20校の6年生が多摩市立陸上競技場に集まり、各種競技を行った。 2021年度から2023年度にかけて小学校連合体育大会を2日間に分けて実施し町田市立小学校42校の6年生が町田GIONスタジアム（町田市立陸上競技場）に集まり、各種競技を行った。 【競技種目】 （1）100m走 （2）50mハードル走 （3）走り幅跳び （4）走り高跳び （5）チャレンジ種目（特別支援学級等種目）（6）800m走 ※2021年度は未実施 （7）400mリレー （8）長なわ跳び ※2019年度のみ実施 <5年間の総括> 2019年度に参加希望校によるブレ大会を初めて開催した。2020年度は、市内全小学校で実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、参加希望校によるブレ大会として開催した。2021年度からは、市内全小学校による連合体育大会を開催することができた。競技種目を変更するなど新型コロナウイルス感染症対策を施したうえで開催した年もあったが、競技や応援を通して他校の児童との交流が深まるなど、スポーツを楽しむ機会となった。						実績→	14校	20校	42校	42校	42校		
	3-2-3	パブリックビューイングの実施	ホームタウンチームの試合や町田ゆかりのアスリートが国際大会や全国大会に出場する際など、パブリックビューイングを実施し、オール町田の一体感を創出します。	スポーツ振興課 オリパラ推進課 広報課 公園緑地課 指定管理者	観光まちづくり課 観光コンベンション協会	年間実施回数	年 1回	3回	年 3回	年 3回	年 3回	年 3回	年 3回	133.33%	◎
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> 【2019年度】 ラグビーRWC2019等に関連したパブリックビューイング5回開催 【2020年度】 東京2020大会等に関連したパブリックビューイング2回開催 【2021年度】 東京2020大会等に関連したパブリックビューイング1回開催 町田市ゆかりのアスリートである大迫傑選手（男子マラソン）の応援イベントを、母校である金井中学校の体育館で実施した。参加対象を在校生及び保護者とし、21名が参加した。大迫選手の中学生当時を知る関係者をゲストに招き、解説を交えながら競技中継を放映した。 <5年間の総括> 2019年度は、RWC2019やラグビー日本代表、町田市の公認チームキャンプ国であったナミビア代表戦等のパブリックビューイングを実施し、大会やラグビー競技に対する市民の関心を高め、まちを挙げた盛り上がりにつなげることができた。 2020年度は、東京2020大会に向けて町田ゆかりのアスリートであるマラソンの大迫選手が出場したMGCのパブリックビューイング等を実施することにより、東京2020大会に向けた気運醸成を図ることができた。						実績→	年 5回	年 2回	年 1回	年 0回	年 4回		

※1 町田市放課後等子ども遊び場見守り事業「まちとも」とは、放課後に子どもたちが安心して過ごす居場所をつくるため、大人に見守られ過ごすことのできる自由来所型の活動。（市内小学校で実施）

町田市スポーツ推進計画19-28アクションプランと評価（2019～2023年度）

基本目標4 スポーツを通じたまちづくり

○基本施策(1)スポーツ情報の発信の評価

指標	「市のスポーツ情報をきっかけにスポーツに関わった」という回答の割合	現状値 2018	42.80%	目標値 2023	60.00%	実績値 2023	48.30%	達成率	80.50%	評価	△
前期評価 次期課題	前期アクションプランの期間においては、「ラグビーワールドカップ2019」や「東京2020オリンピック・パラリンピック大会」などを契機に、市が発信するスポーツ情報に興味を持つ方が増加する傾向が見受けられました。「町田市のスポーツ情報をどこから入手していますか」という質問に対しては、「広報まちだ」という回答が36.5%と最も高い結果となっています。スポーツ実施率が低い傾向にある40歳以下の若年層への働きかけにつながるよう、後期アクションプランではSNSの活用等も検討が必要です。										

基本施策	整理番号	取組項目	取組内容	取組主体	連携先	指標	現状値	目標値	2019	2020	2021	2022	2023 【目標値】	%	評価
(1)スポーツ情報の発信	4-1-1	【再掲】市内10地区のスポーツマップの作成・活用	地域のスポーツが楽しめる場所やスポーツ情報がまとめられた地図を作成し、市内の全小中学生に配布します。	スポーツ振興課 地域スポーツクラブ スポーツ推進委員	学校 町内会自治会	スポーツマップを作成した地区数	0地区	10地区	検討調査	2地区	4地区	7地区	10地区		
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> 2019年度は、ボール遊びができる公園等の基準などについて検討を行った。 2020年度は、2地区(南地区、高ヶ坂・成瀬地区)のスポーツマップを作成し、ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア)と連携し、区域内の小学校12校に配布した。 2021年度は、新たに2地区(相原地区、小山・小山ヶ丘地区)のスポーツマップを作成し、ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア)と連携し、区域内の小学校5校と、前年度作成した2地区についても作成済みのスポーツマップの内容を時点更新し、区域内の各小学校に配布した。 2022年度は、新たに3地区(町田第一地区、町田第二地区、玉川学園・南大谷地区)のスポーツマップを作成し、ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア)と連携し、区域内の小学校9校と、前年度までに作成した4地区についても作成済みのスポーツマップの内容を時点更新し、区域内の各小学校に配布した。 2023年度は、新たに3地区(鶴川地区、忠生地区、木曽地区)のスポーツマップを作成し、ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア)と連携し、区域内の小学校16校と、前年度までに作成した7地区についても作成済みのスポーツマップの内容を時点更新し、区域内の各小学校に配布した。 ※補足:配布対象者は、作成初年度の地区内では、各小学校の小学1年生～3年生、すでに作成を完了した地区では、各小学校の新1年生を対象に配布しています。 <5年間の総括> 前期アクションプランの期間では、市内全10地区のスポーツマップ(ボール遊びができる公園等を掲載した地図)を作成し、市内全小学校に配布することができた。配布先の学校の校長先生から感謝のお声をいただくことがあった他、スポーツに関する市民意識調査アンケートの中で、「子どものスポーツや外遊びの環境が、自分が子どもの頃と比べて悪くなったと感じるか」という質問に対し、地区別の集計結果において、配布した地区では前年度よりも数値が改善する傾向が見られたことなど、一定の効果が得られたのではないかと考える。後期アクションプランでは、さらに子どもたちが楽しく体を動かすきっかけにつながるような情報を追加し、継続して配布していきたい。						実績→	検討調査	2地区	4地区	7地区	10地区	100.00%	○
	4-1-2	スポーツ以外の既存情報発信ツールとの連携	スポーツが主たる目的ではない団体と連携し、それらの団体のもつ情報発信ツールを活用することで、今までスポーツ情報が行き届かなかった層に対してスポーツ情報を効果的に届けます。	スポーツ振興課 指定管理者 ホームタウンチーム	公園緑地課 子ども総務課 広報課 高齢者福祉課 高齢者支援センター 障がい福祉課 障がい者支援センター	-	未実施	実施	検討実施	実施	実施	実施	実施		
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> 2019年度は、3つの情報発信ツール(高齢者支援センターへのチラシ配布、まちだ子育てサイトへの掲載、生涯学習NAVI)への情報を掲載した。 2020年度は、5つの情報発信ツール(高齢者支援センター、子どもセンター、保育園へのチラシ配布、まちだ子育てサイトへの掲載、生涯学習NAVI) 2021年度は、4つの情報発信ツール(子どもセンター、保育園へのチラシ配布、まちだ子育てサイトへの掲載、健康だよりI)への情報を掲載した。 2022年度は、4つの情報発信ツール(子どもセンター、保育園へのチラシ配布、まちだ子育てサイトへの掲載、健康だよりI)への情報を掲載した。 2023年度は、5つの情報発信ツール(高齢者支援センターへのチラシ配布、子どもセンター、保育園へのチラシ配布、まちだ子育てサイトへの掲載、健康だよりI)への情報を掲載した。 <5年間の総括> 前期アクションプランの期間では、2020年度から2022年度にかけ、新型コロナウイルス感染症の拡大により、スポーツに関するイベント等の中止が多く、掲載できる情報が少ない時期があった他、紙媒体での情報共有に限界があるという課題も生じた。後期アクションプランでは、他の世代に比べてスポーツ実施率が低い働き盛り世代に対し、SNSから情報を収集することが多い世代であることに着目し、ICTを活用した情報発信を図っていきたい。						実績→	検討実施	実施	実施	実施	実施	-	○
	その他関連取組	デジタルサイネージによる情報提供													
評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> 設置者であるまちづくり公社やホームタウンチームと調整を重ね、活用方法等を検討した。 <5年間の総括> ホームタウンチームと連携し、情報共有を図りながら活用方法等を検討した。設置された2022年度以降は、ホームタウンチームの試合情報などの発信に活用されている。													-	○

○基本施策(2)スポーツを通じたシティプロモーションの評価

指標	地域活性化につながるスポーツ大会の開催数	現状値 2018	0大会	目標値 2023	1大会	実績値 2023	2大会	達成率	200.00%	評価	◎
前期評価 次期課題	前期アクションプランの期間においては、「ラグビーワールドカップ2019」や「東京2020オリンピック・パラリンピック大会」などを契機に、事前キャンプの受け入れ等を実施することによりシティプロモーションにつなげる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、事前キャンプをはじめとする多くのイベントが実施困難となりました。後期アクションプランにおいては、オリパラのレガシーでもある関係国、関係団体との連携体制を活用し、シティプロモーションにつながる取り組みを実施していく必要があります。										

基本施策	整理番号	取組項目	取組内容	取組主体	連携先	指標	現状値	目標値	2019	2020	2021	2022	2023 【目標値】	%	評価
(2)スポーツを通じたシティプロモーション	4-2-1	ホームタウンチームと連携したPR活動	ホームタウンチームと連携し、スポーツ施設や駅周辺をチームカラーに装飾します。また、ホームタウンチームの地域活動を支援します。	スポーツ振興課 指定管理者	ホームタウンチーム 道路管理課 公園緑地課 観光まちづくり課 地元商店会 市民協働推進課 町内会自治会	-	実施	拡大	実施	実施	実施	実施	拡大	100.00%	○
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> ・ホームタウンチームの開幕戦や大きなイベントに合わせて、ペDESTリアンデッキに横断幕、タペストリーを設置をし、チームカラーで一体感のある装飾にすることでPRを行った。 ・ホームタウンチームの大きな試合の前にペDESTリアンデッキをチームカラーにライトアップした。 ・FC町田ゼルビアのJ2優勝及びJ1昇格決定後、市庁舎正面に横断幕を設置し、PRを行った。 ・ツイッターを活用したチームのホームゲーム情報、試合結果等、チームに関連する情報発信を開始した。 ・ホームタウンチームの開幕戦に合わせ、庁内での応援ウィークを実施した。 ・東急リハパルと連携し、大型ビジョンでのホームタウンチーム情報の周知を行った。 <5年間の総括> ホームタウンチームの開幕戦やシーズンの中で大きな試合を迎える前に、ペDESTリアンデッキの一体感のある装飾や市庁舎での応援ウィークの実施で周知を図るとともに、ホームタウンチームを応援する雰囲気を作った。 また、新たにツイッターを用いた比較的若い世代への周知や東急リハパルとの連携などこれまでになかったツールでの支援を行った。						実績→	実施	実施	実施	実施	拡大		
	4-2-2	ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催によるシティプロモーション	ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた気運醸成を行います。	オリパラ等国际大会推進課 スポーツ振興課 観光まちづくり課 広報課	スポーツ振興課 体育協会 指定管理者 観光コンベンション協会	RWC2019及びオリンピック・パラリンピック関連の年間プレスリリース回数	年 24回	24回	年 24回	年 24回	-	-	-	75.00%	△
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた市民への周知を行うため、プレスリリースを行った。 【2019年度内訳】 ラグビーワールドカップ2019関連：9回（気運醸成：5回、パブリックビューイング：2回、ナミビア交流：2回） オリンピック・パラリンピック関連：15回（気運醸成：4回、聖火リレー：2回、自転車競技ロードレース：2回、事前キャンプ：2回、ホストタウン：3回、パブリックビューイング：1回、大規模大会周知：1回） 【2020年度内訳】 ・オリンピック・パラリンピック関連：11回（気運醸成：2回、聖火リレー：3回、ホストタウン：3回、大規模大会周知：1回、共生社会ホストタウン：2回） 【2021年度内訳】 ・オリンピック・パラリンピック関連：16回（気運醸成：7回、聖火リレー：2回、ホストタウン：1回、事前キャンプ：2回、パラスポーツ：3回、ボランティア：1回） <5年間の総括> 2019年度は、ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関連する情報を積極的にプレスリリースし、大会開催に向けた市民への気運醸成を行った。2020年度から新型コロナウイルス感染症の影響により、東京2020大会も開催延期となったが、関連情報を積極的にプレスリリースし、大会開催に向けた市民への気運醸成を行った。2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していたイベントは実施困難であったが、街中装飾や市ホームページ・SNSの活用等、様々な手段を駆使して情報発信を図り、気運醸成に取り組んだ。また、インドネシアパラバドミントン代表チームの公開練習では、オンライン中継などの工夫を図り、感染症対策を講じた上で実施し多くの市民に参加頂くことができた。						実績→	年 24回	年 6回	16回	—	—		
	4-2-3	関係団体と連携したイベント開催体制の強化	スポーツ団体、ボランティア組織、観光関係団体等が連携し、スポーツイベント開催時に必要な調整や手続きに係る事務をパッケージ化して、イベント開催を円滑に進めます。	スポーツ振興課 観光まちづくり課	オリパラ推進課 広報課 観光コンベンション協会 体育協会 交通事業者 商店会	市内スポーツイベント等開催時の連携実施	未連携	連携による大会開催	プレキャンプでの連携の試行	事前キャンプでの連携の試行	・試行結果の検証・連携の実施検討	大会主催者等との調整	連携による大会開催	100.00%	○
	評価コメント	<5年間の具体的な取り組み> 【2019年度】 町田市観光コンベンション協会と連携して、インドネシア空手代表チームのプレキャンプ受入れに向けた宿泊・輸送・食事等の手配調整を行った。 【2022年度】 第20回アクサブレイブカップブラインドサッカー日本選手権のFINALラウンド開催に向けて、主催団体とホームタウンチームや体育協会、町田市が連携し、広報・周知の体制の強化を図ったほか、大会運営にまちだサポーターズの積極的な活用を呼び掛けるなど、円滑に大会が開催できるよう調整を行った。 【2023年度】 日本フットサルリーグデヴィジョン1のFINALラウンド町田開催に向けて、ホームタウンチームと町田市が連携し、広報・周知の体制強化を図ったほか、町田市と地元商店会等々が連携したほか、大会運営にまちだサポーターズの積極的な活用を呼び掛けるなど、円滑に大会が開催できるよう調整を行った。 <5年間の総括> 2019年度のインドネシア空手代表チームのプレキャンプ受入れで、必要な調整や手続きを町田市観光コンベンション協会と連携して進め、円滑に実施することができた。しかし、2020年度からコロナウイルス感染症を受け、イベント中止や無観客等の制限がある中で、スポーツ団体やボランティア組織、観光関係団体等と連携してのスポーツイベント開催が難しかった。そのため、スポーツイベント開催時に必要な調整や手続きに係る事務のパッケージ化を進めることはできなかったが、後期アクションプランでは、スポーツイベント開催が多くなると思われるため、スポーツ団体やボランティア組織、観光関係団体等と連携しての引き続きパッケージ化に向けて取り組みたい。						実績→	プレキャンプでの連携の試行	未実施	未実施	連携	連携による大会開催		

前期アクションプラン取り組み状況に関する評価まとめ

○基本目標1 スポーツへの参加機会の充実

○基本施策(1)子どものスポーツ推進の評価

指標	「スポーツが嫌い」という回答の割合	現状値 2018	小5 8.8% 中2 14.0%	目標値 2023	小5 6% 中2 9%	実績値 2022※	小5 8.6% 中2 14.7%	達成率	97.23% 93.74%	評価	○ ○
前期評価 次期課題	スポーツ推進計画策定時において、「スポーツがやや嫌い」と回答する子どもの数を減らしていく取組が重要ではないか、とのご意見があったことから、年少期にスポーツを好きになり、楽しむきっかけに繋がる取り組みが必要です。前期アクションプランの期間では、新型コロナウイルス感染症の影響から、子どもたちのスポーツ時間が減少する傾向があったものと思われます。後期アクションプランでは、スポーツ離れが進んだ子どもたちが、よりスポーツに興味を持てるよう、取組には工夫が必要になります。										
取組状況 評価	関連するアクションプラン、5項目の3段階評価の数です。 (取組みの面から、どれぐらい予定どおりに進んだか等の評価です)	◎	1	○	3	△	1	評価		◎	

○基本施策(2)働き盛り世代・子育て世代のスポーツ推進の評価

指標	30～49歳のスポーツ実施率	現状値 2018	男性 52.0% 女性 53.7%	目標値 2023	男性 61% 女性 61%	実績値 2023	男性 54.90% 女性 58.80%	達成率	男性 90.00% 女性 96.39%	評価	○ ○
前期評価 次期課題	年代別のスポーツ実施率をみると、40 歳代が最も低く 54.6%、30歳代が55.4%と、次に低くなっています。また、スポーツを行わなかった理由として、「機会がなかったから」「仕事が忙しくて時間がなかったから」「家事・育児が忙しくて時間がなかったから」といった点が上位にあげられます。審議会の中で、前期アクションプランの期間は新型コロナウイルス感染症の影響からリモートワークが進み、働き盛り世代のスポーツをする時間が増加傾向にあったのではないかというご意見がありましたが、徐々にリモートワークの実施率が減少していることから、時間や場所を問わないスポーツ機会や、子育てをしながら参加できるスポーツ機会の提供等が求められています。										
取組状況 評価	関連するアクションプラン、4項目の3段階評価の数です。 (取組みの面から、どれぐらい予定どおりに進んだか等の評価です)	◎	0	○	2	△	2	評価		△	

○基本施策(3)高齢者のスポーツ推進の評価

指標	70歳以上の「スポーツをしない、するつもりがない」という回答の割合	現状値 2018	男性 24.6% 女性 28.9%	目標値 2023	男性 21% 女性 25%	実績値 2023	男性 25.00% 女性 25.80%	達成率	男性 99.94% 女性 98.93%	評価	○ ○
前期評価 次期課題	前期アクションプランの期間では、2019年に男性35.6%・女性29.6%、2020年に男性19.0%・女性25.2%、2021年には男性15.1%・女性24.2%と、70歳以上のスポーツをしていないという回答の割合は、男女ともに減少し、特に男性で顕著でしたが、2022年では、男性の数値が16.0%となり、2021年に比べるとやや悪化しています。後期アクションプランでは、改めて、地域での仲間づくりや、子や孫など、他世代との交流につながる機会を提供し、回答の割合の減少につなげていくことが求められています。なお、男性の方の数値は現時点で2028年目標（設定時点：2018年）を達成できていますが、16.0%からのさらなる減少を目指します。										
取組状況 評価	関連するアクションプラン、3項目の3段階評価の数です。 (取組みの面から、どれぐらい予定どおりに進んだか等の評価です)	◎	0	○	2	△	1	評価		○	

○基本施策(4)障がい者のスポーツ推進の評価

指標	「障がい者のスポーツに関わった」という回答の割合	現状値 2018	6.70%	目標値 2023	12.00%	実績値 2023	7.20%	達成率	60.00%	評価	△
前期評価 次期課題	前期アクションプランの期間においては、オリパラを契機としたパラスポーツの機運醸成や、共生社会の実現等が期待され、一定の成果はあったと考えられますが、後期アクションプランにおいては、高まった機運をさらに広めていくため、パラスポーツへの理解・関心、また障がいのある方でも実施できるスポーツ機会の提供等がより重要となっています。										
取組状況 評価	関連するアクションプラン、4項目の3段階評価の数です。 (取組みの面から、どれぐらい予定どおりに進んだか等の評価です)	◎	1	○	1	△	2	評価		○	

○基本目標2 スポーツに関わる人材と組織の充実

○基本施策(1)スポーツを支える人材の育成の評価

指標	スポーツに関するボランティアを行った割合	現状値 2018	5.50%	目標値 2023	15.00%	実績値 2023	3.70%	達成率	24.67%	評価	△
前期評価 次期課題	まちだサポーターズは、スポーツ祭東京2013(東京国体)を契機に発足し、前期アクションプランの期間においては、「東京2020オリンピック・パラリンピック大会」での活躍を目標に活動が続けられてきました。後期アクションプランにおいては、今後もスポーツに関するボランティア活動が継続されるよう、さらなる活動の充実をはかる必要があります。 また、中学校部活動の地域移行について、国の検討部会から提言などが出されことから、今後、地域のスポーツ指導者の需要が高まることが予測されます。市内の大学や企業との連携、指導者が所属する団体や、地域でスポーツ機会を提供する各団体、(体育協会、スポーツ推進委員、地域スポーツクラブ)との情報共有等により、指導者の確保や、質を高めることが求められます)										
取組状況 評価	関連するアクションプラン、4項目の3段階評価の数です。 (取組みの面から、どれぐらい予定どおりに進んだか等の評価です)	◎	0	○	3	△	1	評価		○	

○基本施策(2)スポーツを支える団体の支援・育成の評価

指標	各主体が連携・共同して実施した事業の数	現状値 2018	0回	目標値 2023	5回	実績値 2023	5回	達成率	100.00%	評価	○
前期評価 次期課題	まちだサポーターズは、スポーツ祭東京2013(東京国体)を契機に発足し、前期アクションプランの期間においては、「東京2020オリンピック・パラリンピック大会」での活躍を目標に活動が続けられてきました。後期アクションプランにおいては、今後もスポーツに関するボランティア活動が継続されるよう、さらなる活動の充実をはかる必要があります。 また、中学校部活動の地域移行について、国の検討部会から提言などが出されことから、今後、地域のスポーツ指導者の需要が高まることが予測されます。市内の大学や企業との連携、指導者が所属する団体や、地域でスポーツ機会を提供する各団体、(体育協会、スポーツ推進委員、地域スポーツクラブ)との情報共有等により、指導者の確保や、質を高めることが求められます)										
取組状況 評価	関連するアクションプラン、3項目の3段階評価の数です。 (取組みの面から、どれぐらい予定どおりに進んだか等の評価です)	◎	0	○	2	△	1	評価		○	

○基本目標3 スポーツ環境の充実

○基本施策(1)「する」スポーツ環境の充実の評価

指標	「子どものスポーツや外遊びの環境が悪くなった」という回答の割合	現状値 2018	56.50%	目標値 2023	40.00%	実績値 2023	43.80%	達成率	93.67%	評価	○
前期評価 次期課題	「スポーツに関する市民意識調査アンケート」によると、「今後、町田市でのスポーツ施設に求めることはありますか」という質問で、「身近なところで利用できる施設の新設」が37.8%と最も多い結果となっています。市民の誰もが身近な場所でスポーツを実施できるよう、今後も継続してスポーツ施設の整備を進めていく必要があります。										
取組状況 評価	関連するアクションプラン、7項目の3段階評価の数です。 (取組みの面から、どれぐらい予定どおりに進んだか等の評価です)	◎	1	○	4	△	2	評価		○	

○基本施策(2)「みる」スポーツ環境の充実の評価

指標	「町田市内でスポーツ観戦した」という回答の割合	現状値 2018	12.80%	目標値 2023	40.00%	実績値 2023	12.20%	達成率	30.50%	評価	△
前期評価 次期課題	前期アクションプランの期間においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、無観客による開催や、試合会場への入場制限などが多くあり、年間観客者数がコロナ前の半分以上にまで下がった時期もありましたが、徐々に観客者数が戻りつつあります。後期アクションプランでは、リモート観戦しかしたことがない方などにも、町田市内でのスポーツ観戦に興味を持ってもらえるような取組が必要です。										
取組状況 評価	関連するアクションプラン、3項目の3段階評価の数です。 (取組みの面から、どれぐらい予定どおりに進んだか等の評価です)	◎	1	○	2	△	0	評価		◎	

○基本目標4 スポーツを通じたまちづくり

○基本施策(1)スポーツ情報の発信の評価

指標	「市のスポーツ情報をきっかけにスポーツに関わった」という回答の割合	現状値 2018	42.80%	目標値 2023	60.00%	実績値 2023	48.30%	達成率	80.50%	評価	△
前期評価 次期課題	前期アクションプランの期間においては、「ラグビーワールドカップ2019」や「東京2020オリンピック・パラリンピック大会」などを契機に、市が発信するスポーツ情報に興味を持つ方が増加する傾向が見受けられました。「町田市のスポーツ情報をどこから入手していますか」という質問に対しては、「広報まちだ」という回答が36.5%と最も高い結果となっています。スポーツ実施率が低い傾向にある40歳以下の若年層への働きかけにつながるよう、後期アクションプランではSNSの活用等も検討が必要です。										
取組状況 評価	関連するアクションプラン、3項目の3段階評価の数です。 (取組みの面から、どれぐらい予定どおりに進んだか等の評価です)	◎	0	○	3	△	0	評価		◎	

○基本施策(2)スポーツを通じたシティプロモーションの評価

指標	地域活性化につながるスポーツ大会の開催数	現状値 2018	0大会	目標値 2023	1大会	実績値 2023	2大会	達成率	200.00%	評価	◎
前期評価 次期課題	前期アクションプランの期間においては、「ラグビーワールドカップ2019」や「東京2020オリンピック・パラリンピック大会」などを契機に、事前キャンプの受け入れ等を実施することによりシティプロモーションにつなげる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、事前キャンプをはじめとする多くのイベントが実施困難となりました。後期アクションプランにおいては、オリパラのレガシーでもある関係国、関係団体との連携体制を活用し、シティプロモーションにつながる取り組みを実施していく必要があります。										
取組状況 評価	関連するアクションプラン、3項目の3段階評価の数です。 (取組みの面から、どれぐらい予定どおりに進んだか等の評価です)	◎	0	○	2	△	1	評価		○	